

سريقية وذلك في سنة تسع وثمانين للهجرة وقال الح
ابو عبد الله الحميدى في كتاب جذوة المقتبس ان موسى
بن نصير تولى افريقية والمغرب سنة سبع وسبعين
رسله اليها فلما قدمها ومعه جماعة من الجنود بلغ
بأطراف البلاد جماعة خارجين عن الطاعة فوجه
الله فاتاه بمائة الف رأس من
ن الى جهة اخ

アラビア語のノート

古典アラビア語の授業ノート

I

<http://arabiago.jimdo.com>

アラビア語のノート 古典アラビア語の授業ノート

目次

1. 鍛冶屋と犬.....	3	29. この世は塩水.....	4 4
2. 女とニワトリ.....	3	30. ソームナートの不思議.....	4 5
3. ウサギとカメ.....	4	31. 鳴く鳥.....	4 8
4. マムシとキツネ.....	5	32. ムタワッキルの屋敷.....	4 9
5. プラトンと若者.....	6	33. ムウタシムと少年.....	4 9
6. 競馬場で.....	6	34. アレキサンダーと盗賊.....	5 0
7. アドハムとリンゴ.....	7	35. 罵りは無視.....	5 1
8. ザイヤートとかまど.....	8	36. マアムーンの気遣い.....	5 2
9. アリストテレスの手紙.....	9	37. 回文.....	5 3
10. ムアーウィヤの言葉.....	9	38. 暗黒の国への旅.....	5 3
11. 戦争を見たかった男.....	1 0	39. ムタラッミスとウマイマ.....	5 6
12. 金持ちか貧乏か.....	1 1	40. ハーティムの気前良さ.....	5 9
13. さまざまな詩句.....	1 2	41. 泥棒とロバと皿.....	6 0
14. ハッジャージュと老人.....	1 4	42. フナインの靴を持って帰る.....	6 1
15. イブン・ハルマとマンスール.....	1 5	43. 幾つですか.....	6 4
16. ハーディーとハワーリジュ派の男.....	1 7	44. 打つなら打て.....	6 5
17. アシュアブと皿.....	1 9	45. ブドウ酒を求める.....	6 6
18. アブー・ドラーマと妻.....	1 9	46. ムーサー(モーセ)とカールーン(コラ).....	6 7
19. カリフと貧しい詩人.....	2 2		
20. バッシャーと男.....	2 4		
21. バベルの塔.....	2 4		
22. 矢折りの話.....	2 6		
23. ハールーン・アッ=ラシードと指輪.....	2 7		
24. ヒバリと男.....	3 0		
25. アシュアブと魚.....	3 2		
26. 気前の良い男.....	3 4		
27. ウマイヤ家の男.....	3 6		
28. アブー・ドラーマと鶏小屋.....	4 1		

ずっと前の古典アラビア語講読の授業のノートをもとに作ったアラビア語と日本語の対訳です。アラビア語には母音符号をつけています。先生の講義内容は正しかったはずですが、受講者の不注意のため、このノートにはいくつか間違いもあるかと思えます。ご容赦下さい。この冊子は同タイトルのWebページに、順次掲載しているものをまとめたものです。お気づきの点、ご質問等がございましたら、<http://arabiago.jimdo.com> のページからご連絡をお願いします。

1. 鍛冶屋と犬

حَدَّادٌ كَانَ لَهُ كَلْبٌ دَابُّهُ التَّوَانِي وَالرُّقَادُ
مَا دَامَ الْحَدَّادُ عَامِلًا فَإِذَا رَفَعَ الْعَمَلُ
وَجَلَسَ هُوَ وَأَصْحَابُهُ لِيَأْكُلُوا أُسْتَيْقِظَ
الْكَلْبُ

ある鍛冶屋に1匹の犬がいたが、その犬の習慣は

鍛冶屋が働いている間、怠けて眠っており、仕事が

終わり、彼と仲間が食事のために座ると、

目を覚ますのである。

فَقَالَ لَهُ الْحَدَّادُ يَا كَلْبَ السُّوءِ مَا لِي أَرَى
صَوْتَ الْمَطَارِقِ الَّتِي تُرْعِزُ الْأَرْضَ لَا
يُنْبَهُكَ وَحِسَّ الْمَضْغِ الْخَفِيِّ تَسْمَعُهُ
فِيُوقِظُكَ

鍛冶屋は犬に言った、悪い犬よ、なぜ私は見るか、

地面を揺るがす金槌の音がお前を起こさず、

ひそかに噛む音が聞こえると、

お前を起こすのを。

مَغْزَاهُ أَنَّ الْغَبِيَّ يَتَّقَاعْسُ عَنِ الْوَعْظِ وَإِذَا
سَمِعَ اللَّهْوَ أَنْصَبَ إِلَيْهِ.

その意味は、愚か者は説教には無関心であるが、

娯楽を聞くとそのほうへ殺到するということである。

2. 女とニワトリ

امْرَأَةٌ كَانَ لَهَا دَجَاجَةٌ تَبِيضُ فِي كُلِّ يَوْمٍ
بَيْضَةً فِضَّةً

ある女が、毎日、銀の卵を1個生むニワトリを持って

いた。

فَقَالَتْ فِي نَفْسِهَا إِنَّ أَنَا كَثَّرْتُ عَافَهَا

彼女は心の中で考えた。
もし私がエサを増やしたら

بَاضَتْ بِيضَتَيْنِ

卵を2個生むだろう。

فَلَمَّا فَعَلَتْ ذَلِكَ أَنْشَقَّتْ حَوْصَلَةَ الدَّجَاجَةِ

彼女がそうすると、ニワトリ
の胃袋が破裂して

فَمَاتَتْ

死んでしまった。

مَغْزَاهُ أَنَّ كَثِيرًا بِسَبَبِ طَمَعِهِمْ يَخْسِرُونَ

その意味は、多くの人々は
その貪欲さのために

رَأْسَ مَالِهِمْ.

元手を失うということである。

3. ウサギとカメ

سُلْحَفَاءُ وَأَرْزَبٌ تَسَابَقَتَا مَرَّةً وَجَعَلْنَا الْحَدَّ

カメとウサギがあるとき競
走し、彼らの間でゴールを

بَيْنَهُمَا الْجَبَلَ تَسْتَبِقَانِ إِلَيْهِ

山に決めて、そこまで競走
した。

أَمَّا الْأَرْزَبُ فَلَمَّا تَعَلَّمَ مِنْ نَفْسِهَا مِنْ

ウサギのほうは自分自身
が走るのに身が軽いこと

الْخِفَّةِ فِي الْجَرِيِّ تَوَانَتْ فِي الطَّرِيقِ

を知っているのに、途中で
怠けて

وَنَامَتْ

寝た。

وَأَمَّا السُّلْحَفَاءُ فَلِعِلْمِهَا بِثِقَلِ حَرَكَتِهَا لَمْ

カメのほうは動きが重い
のを知っているのに、

تَكُنْ تَسْتَقِرُّ وَلَا تَتَوَانَى فِي الْمَسِيرِ حَتَّى

休まず、怠けずに進み、ついに

وَصَلْتَ إِلَى الْجَبَلِ قَبْلَهَا

ウサギより前に、山に着いた。

وَعِنْدَمَا أَسْتَيْقِظُ الْأَرْنبُ مِنْ نَوْمِهَا

ウサギは眠りから覚めたとき、既にカメが先着したの

وَجَدْتَهَا قَدْ سَبَقَتْ فَندِمْتُ حَيْثُ لَا نَدَامَةَ

に気付いて後悔したが、既に後悔の時ではなかった。

مَغْزَاهُ لَا يَنْبَغِي لِلْقَوِيِّ أَنْ يَتَّكِلَ عَلَى مَا

その意味は、強い者は自分の持っている力に

عِنْدَهُ مِنَ الْقُوَّةِ وَيُغْفَلُ أَمْرُهُ فَيَفْشَلُ

頼って自分のことをおろそかにすべきではない、

وَيَكُونُ مِنَ الْخَاسِرِينَ 1

さもなければ失敗して損失者となるということである。

1 否定 + 接続法 ~、さもなければ~

4. マムシとキツネ

كَانَتْ أَفْعَى نَائِمَةً عَلَى حُرْمَةِ شَوْكٍ

マムシがイバラの束の上で眠っていた。

فَحَمَلَهَا السَّيْلُ وَالْأَفْعَى عَلَيْهَا

洪水がマムシを乗せたままそれを運び去った。

إِذْ نَظَرَ إِلَيْهَا ثَعْلَبٌ فَقَالَ مِثْلُ هَذَا الْمَلَّاحِ

キツネがそれを見て、言った。このような船乗りは

يَصْلُحُ لِهَذِهِ السَّفِينَةِ.

この船にふさわしい。

5. プラトンと若者

سَأَلَ شَابٌّ أَفْلَاطُونَ كَيْفَ قَدَرْتَ عَلَى

ある若者がプラトンに尋ねた。どのようにして

كَثْرَةَ مَا تَعَلَّمْتَ

あなたはそんなに多くを学ぶことができたのですか。

قَالَ لِأَنِّي أَفْنَيْتُ مِنْ الزَّيْتِ أَكْثَرَ مِمَّا

彼は言った。何故ならあなたが飲んだブドウ酒の量

شَرِبْتَ مِنَ الْخَمْرِ.

より多くの油を私は消費したからです。

6. 競馬場で

قَالَ أَبُو عُبَيْدَةَ أُجْرِبَتِ الْخَيْلُ فِي الْحَلْبَةِ

アブー・ウバイダが言った。競馬場で馬が走ら

فَجَاءَ فَرَسٌ مِنْ الْخَيْلِ سَابِقًا

され、1頭の馬が先着した。

فَجَعَلَ رَجُلٌ مِنَ النَّظَّارَةِ يُكْتِرُ الْفَرَحَ

見物人の1人が大いに喜んで神を賛美し、

وَيُكَبِّرُ وَيُصَفِّقُ

手を叩き始めた。

فَقَالَ لَهُ رَجُلٌ إِلَى جَانِبِهِ يَا فَتَى الْفَرَسِ¹

彼の近くにいた男が彼に言った。君、馬は君の

لَكَ

ものなのか。

قَالَ لَا وَلَكِنَّ اللَّجَامَ لِي.

彼は言った。いいえ、でも手綱は僕のものです。

1 أ (疑問詞)+ الفرس → ألفرس

7. アドハムとリンゴ

يُذَكِّرُ أَنَّ أَدْهَمَ مَرَّ ذَاتَ يَوْمٍ بِسَاتِينَ

次のように述べられている。アドハムがある日

مَدِينَةِ بَخَارَى وَتَوَضَّأَ مِنْ بَعْضِ الْأَنْهَارِ

ブハラ1の町の諸庭園を通り過ぎ、それらの間を

الَّتِي تَخَلَّلَهَا¹ فَإِذَا بِتُفَّاحَةٍ يَحْمِلُهَا مَاءٌ

流れる川でみそぎをした。すると川の水にリンゴが流されてきたので、

النَّهْرِ فَقَالَ هَذِهِ لَا خَطَرَ لَهَا فَأَكَلَهَا

彼は、このことは大したことではないだろうと言って、それを食べた。

ثُمَّ وَقَعَ فِي خَاطِرِهِ مِنْ ذَلِكَ وَسَوَّاسٌ

その後それについて彼の心の中にささやくものが生じた(良心がとがめた)。

فَعَزَمَ عَلَى أَنْ يَسْتَحِلَّ مِنْ صَاحِبِ

そこで彼は庭園の持ち主に赦しを求める決心を

الْبُسْتَانِ

した。

فَقَرَعَ بَابَ الْبُسْتَانِ فَخَرَجَتْ إِلَيْهِ جَارِيَةٌ

その庭園の門を叩くと、女召使が出てきた。

فَقَالَ لَهَا أَدْعِي لِي صَاحِبَ الْمَنْزِلِ

彼は彼女に家の主人を呼んで下さいと言った。

فَقَالَتْ إِنَّهُ لِأَمْرَأَةٍ

彼女は、ある女性のものですと言った。

فَقَالَ أَسْتَأْذِنِي لِي عَلَيْهَا ففَعَلْتُ

彼は彼女のところに入る赦しを求めて下さいと言い、彼女はそうした。

فَأَخْبَرَ الْمَرْأَةَ بِخَبَرِ التُّفَّاحَةِ

そこで彼は女性にリンゴの件を知らせた。

فَقَالَتْ لَهُ إِنَّ هَذَا الْبُسْتَانَ نِصْفُهُ لِي

彼女は言った。この庭園は半分は私のもの、半分は

9. アリストテレスの手紙

كَتَبَ أَرِسْطَاطَالِيسُ إِلَى الْإِسْكَانْدَرِ

アリストテレスがアレキサンダーに書いた。

أَمْلِكِ الرَّعِيَّةَ بِالْإِحْسَانِ إِلَيْهَا تَظْفَرُ¹

親切をもって人民を支配しなさい。そうすれば彼ら

بِالْمَحَبَّةِ مِنْهَا فَإِنَّ طَلَبَكَ ذَلِكَ بِإِحْسَانِكَ

から愛情を得られるだろう。何故なら親切によって

أَدْوَمُ بَقَاءَ مِنْهُ بِأَعْتِسَافِكَ

求めることは横暴によって求めることより長続きするから。

وَأَعْلَمُ أَنَّكَ تَمْلِكُ الْأَبْدَانَ فَاجْمَعِ لَهَا

あなたが彼らの体を支配していることを知り、

الْقُلُوبَ

それに心も加えるように。

وَأَعْلَمُ أَنَّ الرَّعِيَّةَ إِذَا قَدَرْتَ أَنْ تَقُولَ

人民は言うことができるならば行うこともできることを

قَدَرْتَ أَنْ تَفْعَلَ فَاجْهَدْ أَنْ لَا تَقُولَ تَسْلَمُ

知りなさい。だから彼らが言わないように努力しな

مِنْ أَنْ تَفْعَلَ .

さい。そうすれば彼らが行うことから免れるだろう。

1 命令形＋要求法…～せよ、そうすれば～

10. ムアーウィヤの言葉

وَقَالَ مُعَاوِيَةُ إِنِّي لَا أَضَعُ سَيْفِي حَيْثُ

ムアーウィヤは言った。私はムチで十分なところに

يَكْفِينِي سَوْطِي وَلَا أَضَعُ سَوْطِي حَيْثُ

刀を用いないし、舌で十分なところにはムチを

يَكْفِينِي لِسَانِي وَلَوْ أَنَّ بَيْنِي وَبَيْنَ النَّاسِ
شَعْرَةً مَا أَنْقَطَعَتْ

用いない。もし私と人々との間に1本の髪の毛が

あるとすれば、それは切れないだろう。

فَقِيلَ لَهُ وَكَيْفَ ذَلِكَ قَالَ كُنْتُ إِذَا مَدُّوْهَا
أَرْخَيْتُهَا وَإِذَا أَرْخَوْهَا مَدَدْتُهَا.

ある人が彼に言った。それはどうしてですか。彼は言った。もし彼らがそれを引っ張れば、私は緩め、彼らが緩めれば、引っ張っていたであろうから。

11. 戦争を見たかった男

قَالَ أَفْلَحَ التُّرْكِيُّ خَرَجْنَا مَرَّةً إِلَى حَرْبٍ
لَنَا وَمَعَنَا رَجُلٌ كَانَ يَقُولُ أَنَا أَتَمَنَّى أَنْ
أَرَى الْحَرْبَ كَيْفَ هِيَ فَأَخْرَجْنَاهُ
فَأَوَّلُ سَهْمٍ جَاءَ وَقَعَ فِي رَأْسِهِ

トルコ人アフラフが言った。私達は、戦争がどんな

ものか見たいといつも言っていた男を連れて、かつて

戦争に出かけたことがあり、彼を外に出した。

すると飛んできた最初の矢が彼の頭に落ちた。

فَلَمَّا أَنْصَرَفْنَا دَعَوْنَا لَهُ مُعَالِجًا فَنظَرَ إِلَيْهِ

私達が引き揚げたとき、彼のために医者呼んだ。

وَقَالَ إِنَّ خَرَجَ الزُّجُّ وَفِيهِ شَيْءٌ مِنْ

医者は彼を見て言った。もし矢じりを抜いて、それに

دِمَاغِهِ مَاتَ وَإِنْ لَمْ يَخْرُجْ عَلَيْهِ شَيْءٌ مِنْ

脳髓が付いていたら、彼は死ぬだろう。脳髓が

دِمَاغِهِ لَمْ يَكُنْ عَلَيْهِ بَأْسٌ

何も付かずに出てきたら、心配はない。

فَسَبَقَ فَقَبَّلَ رَأْسَهُ وَقَالَ بَشَّرَكَ اللَّهُ بِخَيْرٍ

أَنْزَعَهُ فَمَا فِي رَأْسِي دِمَاحٌ

فَقَالَ الطَّبِيبُ وَكَيْفَ ذَلِكَ

قَالَ لَوْ كَانَ فِي ذَرَّةٍ مِنْ دِمَاحٍ مَا كُنْتُ

هَهُنَا.

すると彼はさっと来て医者
の頭にキスして言った。神
があなたに良い知らせを
もたらしめますように。抜いて
下さい、私の頭には脳髄
はありません。

医者は言った、それはどう
いうことか。

もし私にわずかでも脳髄が
あればここにいなかった

でしょうから。

12. 金持ちか貧乏か

قَالَ رَجُلٌ لِإِبْرَاهِيمَ بْنِ أَدْهَمَ أَقْبَلْ مِنِّي

هَذِهِ الْحَبَّةُ

قَالَ إِنْ كُنْتَ غَنِيًّا قَبِلْتُهَا مِنْكَ

فَقَالَ أَنَا غَنِيٌّ

قَالَ كَمْ مَالِكَ

قَالَ أَلْفَانِ

قَالَ أَيْسُرُكَ أَنْ يَكُونَ أَرْبَعَةَ آلَافٍ

ある人がイブラーヒーム・
ブン・アドハムに言った。

私からこのわずかな贈り物
を受けとって下さい。

彼は言った。あなたが金持
ちなら受取りましょう。

彼は言った。私は金持ちで
す。

彼は言った。あなたの財産
はどれほどですか。

彼は言った。2000(デー
ナール)です。

彼は言った。4000 になると
うれしいですか。

قَالَ نَعَمْ

彼は言った。はい。

قَالَ أَنْتَ فَقِيرٌ لَا أَقْبَلُهَا مِنْكَ.

彼は言った。あなたは貧乏だ、私はあなたから受け取りません。

ことわざ

لَا تَكُنْ رَطِبًا فَتُعْصَرَ

湿っていてはいけない、
さもないと絞られる、

وَلَا يَابِسًا فَتُكْسَرُ

乾いていてはいけない、
さもないと折られる。

13. さまざまな詩句

الصَّمْتُ زَيْنٌ وَالسُّكُوتُ سَلَامَةٌ

沈黙は飾り、黙っていることは安全

فَإِذَا نَطَقْتَ فَلَا تَكُنْ مِثَارًا

発言するとしてもおしゃべりであってはならぬ

مَا إِنْ نَدِمْتَ عَلَى سُكُوتِي مَرَّةً

黙っていたことを一度も後悔したことはないが

وَلَكُمْ نَدِمْتُ عَلَى الْكَلَامِ مِرَارًا

ものを言ったことについて何度後悔したことか

خَلِيلَانِ مَمْنُوعَانِ مِنْ كُلِّ لَذَّةٍ

全ての快樂を禁じられた2人の仲間が

يَبِيتَانِ طُولَ اللَّيْلِ يَعْتَنِقَانِ

抱き合いながら夜通し過ごす

هُمَا يَحْفَظَانِ الْأَهْلَ مِنْ كُلِّ آفَةٍ

彼らはすべての災いから
人々を守り

وَعِنْدَ طُلُوعِ الشَّمْسِ يَفْتَرِقَانِ

日が昇ると分かれる
(謎かけの詩 答:扉)

قَالَ أَبُو نُوَّاسٍ فِي بَخِيلٍ

アブー・ヌワースが、ある
けちんぼについて詠んだ

رَأَيْتُ أَبَا زُرَّارَةَ قَالَ يَوْمًا

私は見た アブー・ズラー
ラがある日

لِحَاجِبِهِ وَفِي يَدِهِ الْحُسَامُ

刀を手にして門番に言うの
を

لَئِنْ وُضِعَ الْخَوَانُ وَلَا حَ شَخْصٌ

もしテーブルが整えられ、
人が現れたなら

لَأَخْتَطِفَنَّ رَأْسَكَ وَالسَّلَامُ

お前の首を取ってしまう、
それだけだ

فَمَا فِي الْأَرْضِ أَقْبَحُ مِنْ خَوَانٍ

なぜなら、パンが上に置か
れたテーブルに、群衆が

عَلَيْهِ الْخُبْزُ يَحْضُرُهُ الزَّحَامُ

来ているよりも醜いものは
地上にないから

قِيلَ إِنَّهُ أَفْتَخَرَ رَجُلٌ عَلَى ابْنِ الدَّهَّانِ

次のように言われている。
ある人が詩人のイブン

الشَّاعِرِ فَأَجَابَهُ

・ダッハーンに自慢すると、
彼は答えた。

لَا تَحْسَبَنَّ أَنَّ بِالشُّعْرِ مِثْلَنَا سَتَّصِيرُ

詩において私達のような
なれると考えるな

فَلِدَّجَاجَةٌ رِيشٌ لَكِنَّهَا لَا تَطِيرُ

ニワトリには羽があるが、
飛べない

حُكِيَ أَنَّ الْحَجَّاجَ خَرَجَ فِي بَعْضِ الْأَيَّامِ
لِلتَّنَزُّهِ فَصَرَفَ عَنْهُ أَصْحَابَهُ وَأَنْفَرَدَ
بِنَفْسِهِ

次のように話されている。
ある日ハッジャージュが

遠乗りに出かけて、家来達
を去らせ

自分1人だけになった。

فَلَاقَى شَيْخًا مِنْ بَنِي عَجَلٍ
فَقَالَ لَهُ مِنْ أَيْنَ أَنْتَ يَا شَيْخُ

そこでバヌー・イジュル族
の老人に出会った。

彼は言った。老人よ、お前
はどこ人間か。

قَالَ مِنْ هَذِهِ الْقَرْيَةِ

彼は言った。この村の者で
す。

قَالَ مَا رَأَيْكُمْ بِحُكَّامِ الْبِلَادِ

:この国の支配者達をどう
思うか。

قَالَ كُلُّهُمْ أَشْرَارٌ يَظْلِمُونَ النَّاسَ

:彼らはみんな悪人で、
人々を迫害し、

وَيَخْتَلِسُونَ أَمْوَالَهُمْ

その財産をかすめ取って
いる。

قَالَ مَا قَوْلِكَ فِي الْحَجَّاجِ

:ハッジャージュについて
の言い分は何か。

قَالَ هَذَا أَنْجَسُ الْكُلِّ سَوْدَ اللَّهِ وَجْهَهُ

:こいつはすべての中で一
番汚れている、神が彼の

وَوَجْهَهُ مَنْ أَسْتَعْمَلَهُ عَلَى هَذِهِ الْبِلَادِ

顔と、彼をこの国の代官に
任命した者の顔を黒くなさ
いますように。

فَقَالَ الْحَجَّاجُ تَعْرِفُ مَنْ أَنَا

ハッジャージュ:私が誰か
知っているか。

قَالَ لَا وَاللَّهِ

:いいえ、神に誓って。

قَالَ أَنَا الْحَجَّاجُ

:私はハッジャージュだ。

قَالَ أَنَا فِدَاكَ وَأَنْتَ تَعْرِفُ مَنْ أَنَا

:私はあなたの身代わりに
なりましょう、あなたは私が
誰か知っていますか。

قَالَ لَا

:いや。

قَالَ أَنَا زَيْدُ بْنُ عَامِرٍ مَجْنُونٌ بَنِي عَجَلٍ

:私はバヌー・イジュル族
の狂人、ザイド・ブン・

أَصْرَعُ كُلَّ يَوْمٍ مَرَّةً فِي مِثْلِ هَذِهِ السَّاعَةِ

アーミルです。毎日1回、
今頃の時間に発作が起こ
るのです。

فَضَحِكَ الْحَجَّاجُ وَأَجَازَهُ.

ハッジャージュは笑って彼
にほうびを与えた。

15. イブン・ハルマとマンスール

دَخَلَ ابْنُ هَرَمَةَ عَلَى الْمَنْصُورِ وَأَمْتَدَحَهُ

イブン・ハルマがマンスールを
訪れ、詩を詠んで彼を
誉めた。

فَقَالَ لَهُ الْمَنْصُورُ سَلْ حَاجَتَكَ

マンスールは彼に言った。
ほしいものを求めよ。

قَالَ تَكْتُبُ¹ إِلَيَّ عَامِلِكَ بِالْمَدِينَةِ أَنَّهُ إِذَا

彼は言った。メディナのあ
なたの代官に、もし私が

وَجَدَنِي سَكْرَانَ لَا يَحْدُنِي

酔っているのを見つけても
罰しないと書いて下さい。

فَقَالَ لَهُ الْمَنْصُورُ هَذَا حَدٌّ لَا سَبِيلَ

マンスールは彼に言った。
これは捨てられない

إِلَى تَرْكِهِ

刑罰である。

فَقَالَ مَا لِي حَاجَةٌ غَيْرُهَا

:私には他に願いはありません。

فَقَالَ لِكَاتِبِهِ اكْتُبْ إِلَيَّ عَامِلِنَا بِالْمَدِينَةِ

彼は書記官に言った。メデイナの代官に書きなさい、

مَنْ أَتَاكَ بِابْنِ هَزْمَةَ وَهُوَ سَكْرَانٌ فَأَجِدْهُ

酔っているイブン・ハルマを誰かが連れてきたら

ثَمَانِينَ جَلْدَةً وَأَجِدِ الَّذِي جَاءَ بِهِ مِائَةً

80 回ムチ打ち、彼を連れてきた者を 100 回ムチ打つようにと。

فَكَانَ الشَّرْطَةُ يَمْرُونَ عَلَيْهِ وَهُوَ سَكْرَانٌ

警吏は酔っている彼のところを通り、誰が 100 をもって

وَيَقُولُونَ مَنْ يَشْتَرِي ثَمَانِينَ بِمِائَةٍ

80 を買うだろうかと言いながら、

فَيَمْرُونَ عَلَيْهِ وَيَبْتَزُّوْنَهُ.

彼を見捨てて通り過ぎるようになった。

1 要求法：丁寧な命令

ことわざ

مَا كُلُّ بَيْضَاءَ شَحْمَةً وَلَا كُلُّ سَوْدَاءَ تَمْرَةً

白いもの必ずしも脂身ではなく、黒いもの必ずしもナツメヤシの実ではない。

(このまは ليس と同じように使われている)

مَا كُلُّ أَصْفَرَ دِينَارًا لِصُفْرَتِهِ

全ての黄色いものが黄色いからといって金貨でない

مَا أَهْوَنَ الْحَرْبِ عَلَى النَّظَّارَةِ

戦争は見物人達にとって何とささいなことか。

ذَكَرَ صَاحِبُ السُّكَّرَدَانِ أَنَّ الْهَادِيَ كَانَ

『スッカラダーン(砂糖壺)』
の著者が述べた。ある日

يَوْمًا فِي بُسْتَانٍ يَتَتَرُهُ عَلَى حِمَارٍ وَلَا

ハーディーは武器を持た
ずにロバに乗って

سِلَاحَ مَعَهُ وَبِحَضْرَتِهِ جَمَاعَةٌ مِنْ

庭園を散歩していた。彼の
面前には側近達の一団と

خَوَاصِّهِ وَأَهْلِ بَيْتِهِ

家の人々の一団がはべっ
ていた。

فَدَخَلَ عَلَيْهِ حَاجِبُهُ وَأَخْبَرَهُ أَنَّ بِالْبَابِ

すると門番が彼のところに
入ってきて知らせた。

بَعْضَ الْخَوَارِجِ لَهُ بَأْسٌ وَمَكَايِدُ وَقَدْ ظَفِرَ

門のところに力と奸智に長
けたパワーリジュ派の1人

بِهِ بَعْضُ الْقَوَادِ

が將軍達に捕えられてい
ます。

فَأَمَرَ الْهَادِيَ بِإِدْخَالِهِ فَدَخَلَ عَلَيْهِ بَيْنَ

ハーディーは彼を連れて
入るように命じた。彼は

رَجُلَيْنِ قَدْ قَبِضَا عَلَى يَدَيْهِ

2人の家来に挟まれ両手
を捕まえられ入ってきた。

فَلَمَّا أَبْصَرَ الْخَارِجِيُّ الْهَادِيَ جَذَبَ يَدَيْهِ

パワーリジュ派の者はハ
ーディーを見ると両手を

مِنَ الرَّجُلَيْنِ وَأَخْتَطَفَ سَيْفَ أَحَدِهِمَا

2人の男から引き抜いて彼
らの1人の刀を奪い、

وَقَصَدَ الْهَادِيَ

ハーディーに向かってき
た。

فَفَرَّ كُلُّ مَنْ كَانَ حَوْلَهُ وَبَقِيَ وَحْدَهُ وَهُوَ

彼のまわりにいた者達は
皆逃げ、彼は1人残り、

ثَابِتٌ عَلَى حِمَارِهِ حَتَّى إِذَا دَنَا مِنْهُ
الْخَارِجِيُّ وَهَمَّ أَنْ يَعْלוهُ بِالسَّيْفِ أَوْمَأَ إِلَى
وَرَاءِ الْخَارِجِيِّ وَأَوْهَمَهُ أَنَّ غُلَامًا وَرَاءَهُ
وَقَالَ يَا غُلَامُ أَضْرِبْ عُنُقَهُ
فَظَنَّ الْخَارِجِيُّ أَنَّ غُلَامًا وَرَاءَهُ
فَأَلْتَفَتَ الْخَارِجِيُّ

ロバの上でじっとしたまま
だった。そして

ハワーリジュ派の者が彼
に近づき、まさに刀で切り
かかろうとしたとき、彼は

後ろにめくばせし、後ろに
家来の若者がいるかの

ように思わせて言った。若
い者よ、彼の首を打て。

そこでハワーリジュ派は若
者が後ろにいると思い

振り向いた。

فَنَزَلَ الْهَادِي مُسْرِعًا عَنْ حِمَارِهِ فَقَبَضَ
عَلَى عُنُقِ الْخَارِجِيِّ وَذَبَحَهُ بِالسَّيْفِ
الَّذِي كَانَ مَعَهُ

ハーディーはすぐにロバか
ら下り、ハワーリジュ派の

首を捕え、彼が持っていた

刀で彼を殺した。

ثُمَّ عَادَ إِلَى ظَهْرِ حِمَارِهِ مِنْ فَوْرِهِ
وَالْخَدَمُ يَنْظُرُونَ إِلَيْهِ وَيَتَسَلَّلُونَ عَلَيْهِ وَقَدْ
مُلُّوا مِنْهُ حَيَاءً وَرُعبًا

それからすぐにロバの背
に戻った。召使達は

彼を見ていて、彼のところ
へこそこそと出てきたが、

恥ずかしさと怖れで一杯だ
った。

فَمَا عَاتَبَهُمْ وَلَا خَاطَبَهُمْ فِي ذَلِكَ بِكَلِمَةٍ
وَلَمْ يُفَارِقِ السَّلَاحَ بَعْدَ ذَلِكَ الْيَوْمِ.

彼は彼らを咎めず、そのこ
とについて一言も語りかけ

なかった。その日以来、彼
は武器を離さなかった。

17. アシュアブと皿

نَظَرَ أَشْعَبُ إِلَى رَجُلٍ يَعْمَلُ طَبَقًا

アシュアブは皿を作っている男を見た。

فَقَالَ لَهُ

そして彼に言った。

أَسْأَلُكَ بِاللَّهِ إِلَّا مَا زِدْتَنِي فِي سَعَتِهِ طَوْقًا

神かけて、一回りか二回りその大きさを増やすように

أَوْ طَوْقَيْنِ¹

お願いします。

فَقَالَ لَهُ الرَّجُلُ مَا مَعْنَى ذَلِكَ

男は言った。それはどういう意味ですか。

قَالَ لَعَلَّهُ أَنْ يُهْدَى إِلَيَّ يَوْمًا فِيهِ شَيْءٌ.

彼は言った。ひょっとしていつかそれに何かを

¹سأل + إلا + 完了形 ~をお願いします (ここではまに意味はない)

入れて私に贈ってもらえるかもしれないから。

18. アブー・ドラーマと妻

دَخَلَ أَبُو دُلَامَةَ عَلَى الْمَهْدِيِّ فَسَلَّمَ ثُمَّ

アブー・ドラーマがマフディーのところにへ入ってきて

قَعَدَ وَأَرْخَى عِيُونَهُ بِالْبُكَاءِ

挨拶し、それから座って目に涙を流した。

فَقَالَ لَهُ مَا لَكَ

マフディーは彼に言った。どうしたのか。

قَالَ مَاتَتْ أُمُّ دُلَامَةَ

:(妻の)ウナム・ドラーマが死にました。

فَقَالَ إِنَّا لِلَّهِ وَإِنَّا إِلَيْهِ رَاجِعُونَ

:我々は神のもの、神のもとに帰る。

وَدَخَلَتْ لَهُ رِقَّةٌ لِمَا رَأَى مِنْ جَزَعِهِ
فَقَالَ لَهُ أَعْظَمَ اللَّهُ أَجْرَكَ يَا أَبَا دُلَامَةَ
وَأَمَرَ لَهُ أَنْ يُعْطَى أَلْفَ دِرْهَمٍ وَقَالَ لَهُ

マフディーは彼の悲しみを見て、彼に同情がわいた。

マフディーは言った。神が報いを大きくなさるように、アブー・ドラマよ。

マフディーは彼に 1000 デイルハム与えるよう命じ、

أَسْتَعِينُ بِهَا فِي مُصِيبَتِكَ

言った。不幸なとき、それに助けを求めよ。

فَأَخَذَهَا وَدَعَا لَهُ وَأَنْصَرَفَ

彼は受けとり、マフディーのために祈って去った。

فَلَمَّا دَخَلَ إِلَى مَنْزِلِهِ قَالَ لِأُمِّ دُلَامَةَ

彼は家に入ったとき、ウム・ドラマに言った。

أَذْهَبِي فَاسْتَأْذِنِي عَلَى الْخَيْرَانِ فَإِذَا

行ってハイズラーンに入る許可を求めなさい、

دَخَلْتِ عَلَيْهَا فَتَبَاكَى وَقُولِي مَاتَ أَبُو

入ったら、泣くふりをして、アブー・ドラマが

دُلَامَةَ

死んだと言いなさい。

فَمَضَتْ وَاسْتَأْذَنْتِ عَلَى الْخَيْرَانِ فَأَذِنَتْ

彼女は出かけてハイズラーンに入る許しを求め、

لَهَا

ハイズラーンは彼女に許しを与えた。

فَلَمَّا أَطْمَأَنَّتِ أُرْسَلَتْ عَيْنُهَا بِالْبُكَاءِ

彼女は落ち着くと目に涙を流した。

فَقَالَتْ لَهَا مَا لَكَ

ハイズラーンは言った。どうしたのか。

فَقَالَتْ مَاتَ أَبُو دُلَامَةَ

彼女は言った。アブー・ドラマが死にました。

فَقَالَتْ إِنَّا لِلَّهِ عَظَمٌ اللَّهُ أَجْرَكَ
وَتَوَجَّعَتْ لَهَا ثُمَّ أَمَرَتْ لَهَا بِأَلْفِي دِرْهَمٍ

ハイズラーンは言った。
我々は神のもの、神があ
なたの報いを大きくされる
ように。そして彼女に同情
し2000ディルハム与える
よう命じた。

فَدَعَتْ لَهَا وَأَنْصَرَفَتْ

彼女はハイズラーンのた
めに祈って去った。

فَلَمْ يَلْبَثِ الْمَهْدِيُّ أَنْ دَخَلَ عَلَى

まもなくマフディーがハイ
ズラーンのもとに入って

الْخَيْرَانَ فَقَالَتْ يَا سَيِّدِي أَمَا عَلِمْتَ أَنَّ

きたので彼女は言った。あ
なた、アブー・ドラマが

أَبَا دُلَامَةَ مَاتَ

死んだのをご存じないので
すか。

قَالَ لَا يَا حَبِيبَتِي إِنَّمَا هِيَ أَمْرَاتُهُ أُمَّ

:いや、いとしい人よ、それ
は彼の妻のウムム・

دُلَامَةَ

ドラマだ。

قَالَتْ لَا وَاللَّهِ إِلَّا أَبُو دُلَامَةَ

:いいえ、神かけて他なら
ぬアブー・ドラマよ。

فَقَالَ خَرَجَ مِنْ عِنْدِي السَّاعَةَ أَنْفًا

:彼はついさっき私のところ
から出て行った。

فَقَالَتْ خَرَجَتْ مِنْ عِنْدِي السَّاعَةَ

:彼女はたった今私のとこ
ろから出て行きました。

وَأَخْبَرْتُهُ بِخَبَرِهَا وَبُكَائِهَا فَضَحِكَ وَتَعَجَّبَ

ハイズラーンはウムム・ドラ
ーマと涙のことを話した。

مِنْ حِيلِهِمَا.

彼は笑い、2人の策略に
感心した。

إِسْتَحِ مِنْ ذَمِّ مَنْ لَوْ كَانَ حَاضِرًا

恥じなさい、もしそこにいたら
ら大げさに誉めるような人

لَبَالِغَتْ فِي مَدْحِهِ وَمَدْحِ مَنْ لَوْ كَانَ

を、非難することを。
もしそこにいなければ

غَائِبًا لَسَارَعْتَ إِلَى ذَمِّهِ.

急いで非難するような人
を、誉めることを

19. カリフと貧しい詩人

إِسْتَدْعَى بَعْضُ الْخُلَفَاءِ شُعْرَاءَ مِصْرَ

あるカリフがエジプトの詩
人達を呼び寄せた。

فَصَادَفَهُمْ شَاعِرٌ فَقِيرٌ بِيَدِهِ جَرَّةٌ فَارِغَةٌ

手にからの水がめを持ち、
水を満たしにナイル川へ

ذَاهِبًا بِهَا إِلَى الْبَحْرِ لِيَمْلَأَهَا مَاءً

向かう貧しい詩人が、彼ら
に出会った。

فَتَبِعَهُمْ إِلَى أَنْ وَصَلُوا إِلَى دَارِ الْخِلَافَةِ

彼は彼らについて行き、カ
リフの館に着いた。

فَبَالَغَ الْخَلِيفَةُ فِي إِكْرَامِهِمْ وَالْإِنْعَامِ عَلَيْهِمْ

カリフは大いに彼らを尊敬
し恵みを施したが

وَرَأَى ذَلِكَ الرَّجُلَ وَالْجَرَّةَ عَلَى كَتِفِهِ

肩に水がめを担いだその
男を見た。

وَنَظَرَ إِلَى ثِيَابِهِ الرِّثَّةِ وَقَالَ مَنْ أَنْتَ

彼のぼろぼろの服を見て
言った。お前は誰だ、

وَمَا حَاجَتُكَ

何の用だ。

فَأَنْشَدَ

すると男は詩を詠んだ。

وَلَمَّا رَأَيْتُ الْقَوْمَ شَدُّوا رِحَالَهُمْ

あなたのあふれる海へ
人々がラクダの鞍を置くの

إِلَى بَحْرِكَ الطَّامِي أَتَيْتُ بِجَرَّتِي

を見たとき、私は水がめ
〔海〕の縁語)を持って来
た。

فَقَالَ الْخَلِيفَةُ أَمَلُوا لَهُ الْجِرَّةَ ذَهَبًا وَفِضَّةً

カリフは言った。彼のため
に水がめを金と銀で満た
せ。

فَحَسَدَهُ بَعْضُ الْحَاضِرِينَ وَقَالَ

そこにいた1人が彼をねた
んで言った。

هَذَا فَقِيرٌ مَجْنُونٌ لَا يَعْرِفُ قِيمَةَ هَذَا

これは貧しい愚か者で、こ
れだけの財産の価値を

الْمَالِ وَرُبَّمَا أَتْلَفَهُ وَضَيَّعَهُ

知らない、たぶんそれを損
ない、失うだろう。

فَقَالَ الْخَلِيفَةُ هُوَ مَالُهُ يَفْعَلُ بِهِ مَا شَاءَ

カリフは言った。それは彼
の財産だ、彼が好きなよう

فَمَلَأْتُ لَهُ ذَهَبًا

に使えばよい。そして水が
めは金で満たされた。

وَخَرَجَ إِلَى الْبَابِ فَفَرَّقَ الْجَمِيعَ

男は門へ出ると、全部をば
らまいた。

وَبَلَغَ الْخَلِيفَةَ ذَلِكَ فَأَسْتَدْعَاهُ وَعَاتَبَهُ عَلَى

そのことがカリフの耳に届
き、カリフが彼を呼びだし、

ذَلِكَ فَقَالَ

そのことを咎めると、彼は
詩を詠んで言った。

يَجُودُ عَلَيْنَا الْخَيْرُونَ بِمَالِهِمْ

心広き人々がその財で
我々に善を施す、

وَنَحْنُ بِمَالِ الْخَيْرِينَ نَجُودُ

心広き人々のその財で
我々は善を施す。

فَأَعْجَبَهُ ذَلِكَ وَأَمَرَ أَنْ تُمْلَأَ لَهُ عَشْرَ
مَرَّاتٍ وَقَالَ الْحَسَنَةُ بِعَشْرَةِ أَمْثَالِهَا.

カリフはそれが気に入り、
水がめが 10 回満たされる

よう命じ、言った。良い行
いはその 10 倍をもって
(報いられるべきである)。

20. バツシャールと男

قَالَ رَجُلٌ لِبِشَّارٍ إِنَّهُ لَمْ يَذْهَبْ بِبَصَرِ رَجُلٍ
إِلَّا عُوضَ مِنْ بَصَرِهِ شَيْئًا فَمَا عُوضْتَ
أَنْتَ مِنْ بَصَرِكَ
قَالَ أَنْ لَا أَرَاكَ فَأَمُوتَ غَمًّا.

ある男がバツシャールに言
った。人が視力を失うとき

は、必ず何かで償われる。
あなたの視力は

何で償われたか。

彼は言った。あなたを見て
悲しみのあまり死ぬという
ことがないことだ。

21. バベルの塔

قَالَ النَّاسُ بَعْضُهُمْ لِبَعْضٍ هَلُمُّوا نَضْرِبْ
لِبِنَا وَنَحْرِقْ آجُرًا وَنَبْنِ صَرْحًا شَامِخًا
فِي عُلُوِّ السَّمَاءِ يَكُونُ لَنَا ذِكْرًا كَيْلًا
نَتَبَدَّدَ عَلَى وَجْهِ الْأَرْضِ
فَلَمَّا جَدُّوا بِذَلِكَ فِي أَرْضِ شِنْعَارَ وَنُمْرُودُ

人々は互いに言った。さ
あ、白レンガをつくり、

赤レンガを焼いて、天の高
さまでの高い楼閣を

建てよう、我々が大地の表
に分散しないように

記念としよう。

彼らがシヌアルの地でこの
ことに努力している間、ヌ
ムルド(ニムロデ)・ブン・

أَبْنُ كُوشٍ قَاتَ رَاصِفِي الصَّرْحِ بِصَيْدِهِ

クーシュは高樓を建てる人達に自分の獲物を食べさせた。

وَهُوَ أَوَّلُ مَلِكٍ قَامَ بِأَرْضِ بَابِلَ

彼はバビロンの地に立った最初の王であり、

وَهُوَ الَّذِي رَأَى شِبْهَ إِكْلِيلِ فِي السَّمَاءِ

天に冠に似たものを見て、それに似たものを採用し

وَأَتَّخَذَ مِثْلَهُ وَوَضَعَهُ عَلَى رَأْسِهِ

頭の上に置いた者である。

فَقِيلَ إِنَّ إِكْلِيلَهُ نَزَلَ مِنَ السَّمَاءِ

一説には彼の冠は天から下りてきたと言われる。

قَالَ اللَّهُ تَعَالَى هَذَا أِبْتِدَاءُ عَمَلِهِمْ

いと高き神が言われた。これは彼らの行いの始め

وَلَا يَعْجِزُونَ عَنْ شَيْءٍ يَهْتَمُّونَ بِهِ

である。彼らは関心を持つことをやりかねないだろう、

سَوْفَ أُفْرِقُ لُغَاتِهِمْ لِئَلَّا يَعْرِفَ أَحَدُهُمْ

彼らの誰も、他の者の言うことがわからないように、

مَا يَقُولُ الْآخَرُ

彼らの言葉をばらばらにしよう。

فَبَدَّدَ اللَّهُ شَمْلَهُمْ عَلَى وَجْهِ الْأَرْضِ

神は大地の表で彼らの結合を分散させ、暴風を

وَأَرْسَلَ رِيحًا عَاصِفَةً فَهَدِمَ الصَّرْحُ

送った。高樓は破壊され、巨人ヌムルドは

وَمَاتَ فِيهِ نُمْرُودُ الْجَبَّارُ

その中で死んだ。

وَتَبَلَّبَتْ لُغَاتُ الْأَدَمِيِّينَ

人間の言葉はバラバラになった。

فَدُعِيَ اسْمُ الْمَوْضِعِ بَابِلَ

そしてその場所の名はバビロンと呼ばれた。

دَعَا أَكْثَمُ بْنُ صَيْفِيٍّ أَوْلَادَهُ عِنْدَ مَوْتِهِ
فَأَسْتَدْعَى إِضْمَامَةً مِنَ السَّهَامِ فَتَقَدَّمَ إِلَى
كُلِّ وَاحِدٍ مِنْهُمْ أَنْ يَكْسِرَهَا فَلَمْ يَقْدِرْ أَحَدٌ
عَلَى كَسْرِهَا

アクサム・ブン・サイフィー
が臨終に際して子供達を

呼んだ。そして矢の束を持
ってこさせて

彼らの各々にそれを折る
よう言いつけたが

誰1人折ることができな
かった。

ثُمَّ بَدَّدَهَا فَتَقَدَّمَ إِلَيْهِمْ أَنْ يَكْسِرُوهَا
فَأَسْتَسْهَلُوا كَسْرَهَا

それから、それをばらばら
にして彼らに折るよう

言いつけると、彼らはたや
すく折った。

فَقَالَ كُونُوا مُجْتَمِعِينَ لِيَعْجِزَ مَنْ نَاوَأَكُمْ
عَنْ كَسْرِكُمْ كَعَجْزِكُمْ عَنْ كَسْرِهَا مُجْتَمِعَةً
فَإِنَّكُمْ إِنْ تَفَرَّقْتُمْ سَهْلَ كَسْرِكُمْ وَأَنْشَدَ

彼は言った。お前達に敵
対する者がお前達を折ら
ないように、一緒になっ
ていなさい、矢が一緒にな
っていると、折れなかったよ
うに。

お前達がばらばらにな
ると、たやすく折られる。そ
して詩を詠んだ。

كُونُوا جَمِيعًا يَا بَنِيَّ إِذَا أَعْتَرَى

息子達よ、大事が起こった
とき、一緒にいるのだ

خَطْبٌ وَلَا تَتَفَرَّقُوا أَحَادًا

一人一人別々になっては
いけない

تَأْتِي الْقِدَاحُ إِذَا اجْتَمَعْنَ تَكْسِرًا

矢は一緒であるとき、折れ
るのを拒むが

وَإِذَا افْتَرَقْنَ تَكْسَرَتْ أَفْرَادًا

ばらばらになったとき、
個々に折れる

لَا يَزَالُ الْمَرْءُ عَالِمًا مَا طَلَبَ الْعِلْمَ

知識を求める限り、人は依然として学者である。

23. ハールーン・アッ=ラシードと指輪

اِشْتَرَى الْمَهْدِيُّ فِصًّا بِمِائَةِ أَلْفِ دِرْهَمٍ

マフディーは指輪用の宝石を17万ディルハムで

وَسَبْعِينَ أَلْفَ دِرْهَمٍ وَكَانَ هَذَا الْفِصُّ

買った。この指輪用の宝石は「山」の名で知られて

يُعْرَفُ بِالْجَبَلِ وَعَمِلَ عَلَيْهِ خَاتَمًا

おり、彼はそれをもとに指輪を作った。

فَرَأَى يَوْمًا وُلْدَهُ هُرُونَ يُكْرِرُ النَّظَرَ إِلَيْهِ

ある日息子のハールーンがそれを繰り返し、

فَوَهَبَهُ لَهُ

ながめているのを見て、それを彼に与えた。

فَلَمَّا تُوْفِيَ الْمَهْدِيُّ عُهُدَ إِلَى وُلْدِهِ مُوسَى

マフディーが亡くなったとき息子のムーサー・ハー

الْهَادِي

ディーが後継者に任命された。

فَقِيلَ لَهُ إِنَّ وَالِدَكَ كَانَ لَهُ خَاتَمٌ صِفَتُهُ

ある人が彼に言った。お父様はしかじかの形状の指輪を持っておられたのをあなたの御兄弟のハールーン様にあげてしまいましたが、それは

كَذَا وَكَذَا وَقَدْ وَهَبَهُ لِأَخِيكَ هُرُونَ وَلَا

あなたの手の中にある以外はふさわしくありません。なぜならあなたは

يَصْلِحُ إِلَّا أَنْ يَكُونَ فِي يَدِكَ لِأَنَّكَ أَنْتَ

カリフであり、彼はアミールにすぎないのでから。

الْخَلِيفَةُ وَهُوَ أَمِيرٌ

فَوَجَّهَ فِي طَلْبِهِ مِنْهُ وَكَانَ الرَّسُولُ إِلَيْهِ

そこで彼はそれを求めて
使いを送った。使いは

يَحْيَىٰ بَنَ خَالِدٍ فَأَمْتَعَ الرَّشِيدُ مِنْ دَفْعِهِ

ヤフヤー・ブン・ハーリドだ
った。ラシードはそれを渡
すのを拒否した。

وَأَلَحَّ عَلَيْهِ أَخُوهُ الْهَادِي لِيَنْتَزِعَهُ مِنْهُ

兄弟のハーディーは執拗
に取り上げようとし

فَعَادَ إِلَيْهِ يَحْيَىٰ بَنُ خَالِدٍ فِي طَلْبِهِ

ヤフヤー・ブン・ハーリドは
再び彼のところへ求めに
行き、

وَأَعْلَمَهُ أَنَّ أَخَاهُ تَغَيَّرَ عَلَيْهِ بِسَبَبِهِ

それが原因で、兄弟が彼
への気持ち(悪く)変えた
ことを知らせた。

فَأَخَذَهُ هُرُونٌ وَرَكِبَ مَعَ يَحْيَىٰ بَنِ خَالِدٍ

ハールーンは指輪を持ち
ヤフヤー・ブン・ハーリドと

يُرِيدُ قَصْرَ أَخِيهِ الْهَادِي

ともに乗り、兄弟のハーデ
ィーの城に向かった。

فَلَمَّا تَوَسَّطَ الْجِسْرَ أَنْتَزَعَهُ مِنْ يَدِهِ وَقَالَ

橋の真中まで来ると手から
指輪を抜いて言った。

يَا أَبَا الْفَضْلِ أَنْظِرْ إِلَيَّ الْخَاتَمَ هَلْ تَعْرِفُهُ

アブー・ファドル(ヤフヤー
のこと)よ、指輪を見よ、そ
れがわかるか。

قَالَ نَعَمْ هُوَ الْمَقْصُودُ وَالْمَطْلُوبُ

:はい、それこそ、めあて
のもの、求められたもの。

فَرَمَىٰ بِهِ فِي دِجْلَةَ وَرَجَعَ مِنْ طَرِيقِهِ

ハールーンはそれをチグリ
ス川に投げ入れ、来た道
を引き返し、

وَقَالَ لِلرَّسُولِ أَعْلَمُهُ بِمَا رَأَيْتَ

使者に言った。お前が見た
ことを彼に知らせよ。

فَمَضَىٰ يَحْيَىٰ بَنُ خَالِدٍ وَأَعْلَمَ الْهَادِي

ヤフヤー・ブン・ハーリドは
行ってハーディーに

بِذَلِكَ

それを知らせた。

فَغَضِبَ ثُمَّ أَمَرَ بِالْغَوَاصِينَ وَأَهْلِ الْبَحْرِ

すると彼は怒り、潜水夫や海の人達を連れてくるよう

فَغَاصُوا عَلَيْهِ وَأَجْتَهَدُوا فِي إِخْرَاجِهِ

命じ、彼らは指輪を求めて潜り、取り出す努力を

فَلَمْ يَقْدِرُوا عَلَيْهِ وَلَا وَجَدُوهُ

したが、出来ず、見つけれなかった。

فَأَقَامَ الْهَادِي خَلِيفَةً أَرْبَعَ سِنِينَ وَأَشْهُرًا

ハーディーはカリフ位に4年数か月とどまった。

وَمَاتَ بَعْدَ مَا عَاهَدَ إِلَى أَخِيهِ هُرُونِ

そして兄弟のハールーン・アッ=ラシードを後継者に

الرَّشِيدِ وَتَوَلَّى بَعْدَهُ

任命した後、亡くなり、そのあと彼が統治した。

ثُمَّ مَرَّ يَوْمًا مِنَ الْأَيَّامِ بِالْجِسْرِ وَمَعَهُ

そしてある日、ヤフヤー・ブン・ハーリドとともにいる

يَحْيَى بْنُ خَالِدٍ فَقَالَ يَا أَبَا الْفَضْلِ أَتَذْكُرُ

とき、橋を通りかかり、彼は言った。アブー・

الْيَوْمَ الَّذِي أَلْقَيْتُ فِيهِ الْخَاتَمَ فِي هَذَا

ファドルよ、私がこの場所で指輪を投げた日のことを

الْمَكَانِ

覚えているか。

قَالَ نَعَمْ يَا أَمِيرَ الْمُؤْمِنِينَ

:はい、信徒達の長よ。

قَالَ وَاللَّهِ لَمْ أَنْسَ وَقَدْ قَدَفْتُهُ هَكَذَا

:神に誓って、私は忘れない、このように投げた。

ثُمَّ نَزَعَ خَاتَمًا كَانَ فِي يَدِهِ مِنْ فِضَّةٍ

そして彼は手にしていた4ディーナールの価値の

قِيمَتُهُ أَرْبَعَةَ دَنَانِيرَ فَقَدَفَ بِهِ فِي ذَلِكَ

銀の指輪を抜いて他ならぬその場所に投げ、

الْمَكَانِ بِعَيْنِهِ ثُمَّ قَالَ لِأَحَدِ غِلْمَانِهِ
أَنْزِلْ إِلَيْهِ لَعَلَّكَ تَجِدُهُ يَعْغِي الْخَاتَمَ الْفِضَّةَ
الَّذِي رَمَاهُ

そして1人の家来の若者に
言った。

そこに、下りよ、おそらくそ
れを見つけるだろう。

すなわち投げた銀の指輪
のことである。

فَنَزَلَ الْغُلَامُ وَغَطَسَ عَلَيْهِ فَطَلَعَ بِالْخَاتَمِ
الْأَوَّلِ وَالثَّانِي وَكَانَ ذَلِكَ أَمْرًا عَجِيبًا.

そこで若者は下りて指輪を
求めて潜り、最初のと2番
目の指輪を持って

上がってきた。それは不思
議なことであった。

24. ヒバリと男

رَجُلٌ صَادَ قُبْرَةً
فَقَالَتْ مَا تُرِيدُ أَنْ تَصْنَعَ بِي
قَالَ أَذْبَحُكَ وَأَكْلُكَ¹
قَالَتْ وَاللَّهِ إِنِّي لَا أُسْمِنُ وَلَا أُغْنِي مِنْ
جُوعٍ وَلَا أَشْفِي مِنْ قَرَمٍ
وَلَكِنِّي أَعْلَمُكَ ثَلَاثَ خِصَالٍ هِيَ خَيْرٌ
مِنْ أَكْلِي

ある男がヒバリを捕えた。

ヒバリは言った。私をどう
するつもりか。

彼は言った。お前を殺して
食べる。

:神に誓って、私は太っ
ていないし、空腹を満たさ

ないし、食欲をいやさな
い、

しかし私は3つのことを教
えよう、それは私を食べる

よりあなたにとって良いだ
ろう、

أَمَّا الْوَاحِدَةُ فَأُعَلِّمُكَ إِيَّاهَا وَأَنَا عَلَى يَدِكَ

一つ目はあなたの手中に
いるときに教えよう、

وَالثَّانِيَةُ إِذَا صِرْتُ عَلَى الشَّجَرَةِ

2つ目は私が木の上に着
いたときに、

وَالثَّلَاثَةُ إِذَا صِرْتُ عَلَى الْجَبَلِ

3つ目は私が山の上に着
いたときに。

قَالَ نَعَمْ

彼は言った。よろしい。

فَقَالَتْ وَهِيَ عَلَى يَدِهِ لَا تَأْسَفَنَّ عَلَى

そしてヒバリは手の中で言
った。あなたから逃げ去

مَا فَاتَكَ

ったものを後悔するな。

فَخَلَّى عَنْهَا

男はヒバリを放した。

فَلَمَّا صَارَتْ عَلَى الشَّجَرَةِ قَالَتْ لَهُ

ヒバリは木の上に着くと彼
に言った。

لَا تُصَدِّقْ بِمَا لَا يَكُونُ

ありえないことを信じるな。

فَلَمَّا صَارَتْ عَلَى الْجَبَلِ قَالَتْ

山の上に着いたとき、言っ
た。

يَا شَقِيًّا لَوْ ذَبَحْتَنِي لَوَجَدْتَنِي فِي

哀れなやつよ、もし私を殺
したなら胃袋の中に

حَوْصَلَتِي دُرَّةً وَرَنْهَا عِشْرُونَ مِثْقَالًا

20ミスカールの重さの真
珠を見つけただろうに。

قَالَ فَعَضَّ عَلَى شَفْتَيْهِ وَتَلَهَّفَ

語り手が言った。男は唇を
かみ残念がった。

ثُمَّ قَالَ هَاتِي الثَّلَاثَةَ

そして言った。3つ目を出
せ。

قَالَتْ قَدْ نَسِيتَ الْأُولَيَيْنِ فَكَيْفَ

ヒバリは言った。あなたは最初の2つを忘れた、

أَعَلَّمَكِ الثَّلَاثَةَ

だからどうして3つ目を教えようか。

قَالَ وَكَيْفَ ذَلِكَ

彼は言った。それはどういうことだ。

قَالَتْ أَلَمْ أَقُلْ لَكَ لَا تَأْسَفَنَّ عَلَيَّ مَا فَاتَكَ

:私はあなたから逃げ去ったものを後悔するなど

وَقَدْ تَأْسَفْتِ عَلَيَّ وَأَنَا فُتُّكَ

言わなかったか。だが、あなたは私が逃げたのを後悔した、

وَقُلْتُ لَكَ لَا تُصَدِّقْ بِمَا لَا يَكُونُ وَقَدْ

私はありえないことを信じるなど言ったが、あなたは

صَدَّقْتِ فَإِنَّكَ لَوْ جَمَعْتَ عِظَامِي وَلَحْمِي

信じた、たとえ私の骨と肉と羽を合計しても

وَرِيشِي لَمْ تَبْلُغْ عِشْرِينَ مِثْقَالًا فَكَيْفَ

20ミスカールに達しない。なのにどうして

يَكُونُ فِي حَوْصَلَتِي ذُرَّةٌ وَزْنُهَا كَذَلِكَ.

私の胃袋にそれだけの重さの真珠があるだろうか。

1動詞の前の أُريدُ أَنْ が省略されていると考えられるので接続法になっている。

25. アシュアブと魚

بَيْنَا قَوْمٌ جُلُوسٌ عِنْدَ رَجُلٍ مِنْ أَهْلِ

メディナのある人のもとで人々が座って魚を食べて

الْمَدِينَةِ يَأْكُلُونَ عِنْدَهُ حَيْثَانًا إِذِ اسْتَأْذَنَ

いる最中、突然アシュアブ

عَلَيْهِمْ أَشْعَبُ

が入る許しを求めた。

فَقَالَ أَحَدُهُمْ إِنَّ مِنْ شَأْنِ أَشْعَبَ الْبَسَطِ

彼らの1人が言った。一番
立派な食べ物に手を

إِلَى أَجَلِ الطَّعَامِ فَأَجْعَلُوا كِبَارَ هَذِهِ

伸ばすのはアシュアブの
常である、これらの魚の

الْحَيْتَانَ فِي قَصْعَةٍ بِنَاحِيَةٍ وَيَأْكُلُ مَعَنَا

大きなものを皿に入れて
部屋の隅に置き、

الصَّغَارَ

そして我々と共に小さいの
を彼に食べさせよう。

فَفَعَلُوا وَأَذِنَ لَهُ فَقَالُوا لَهُ كَيْفَ رَأَيْكَ فِي

彼らはそのようにして、彼
に入る許しを与え、言った

الْحَيْتَانَ

魚についてどう思うか。

فَقَالَ وَاللَّهِ إِنَّ لِي عَلَيْهَا لِحَرْدًا شَدِيدًا

彼は言った。神かけて、そ
れらに私は激しい怒りと

وَحَنَقًا لِأَنَّ أَبِي مَاتَ فِي الْبَحْرِ وَأَكَلْتَهُ

怨恨がある。なぜなら私の
父は海で死に、魚達が

الْحَيْتَانُ

彼を食べたからです。

قَالُوا لَهُ فِدُونِكَ خُذْ بِثَأْرِ أَبِيكَ

彼らは言った。さあ、これ
だ。父上の仇をとれ。

فَجَلَسَ وَمَدَّ يَدَهُ إِلَى حُوتٍ مِنْهَا صَغِيرٍ

そこで彼は座ってそれらの
うちの小さい魚に手を

ثُمَّ وَضَعَهُ عِنْدَ أُذُنِهِ وَقَدْ نَظَرَ إِلَى

伸ばし、それから、それを
耳元に置いた。彼は

الْقَصْعَةِ الَّتِي فِيهَا الْحَيْتَانُ فِي زَاوِيَةِ

既に部屋の隅の魚の皿を

الْمَجْلِسِ

見ていたのだ。

فَقَالَ أَتَدْرُونَ مَا يَقُولُ لِي هَذَا الْحُوتُ

彼は言った。この魚が私に言っていることをご存じですか。

قَالُوا لَا نَدْرِي

彼らは言った。知りません。

قَالَ إِنَّهُ يَقُولُ إِنَّهُ لَمْ يَحْضُرْ مَوْتَ أَبِي

:これが言うには、私の父の死には立ち会っていないし、

وَلَمْ يُدْرِكْهُ لِأَنَّ سِنَّهُ يَصْغُرُ عَنْ ذَلِكَ

彼を捕えてもいない、なぜなら年が小さすぎてそれができなかったとのこと。

وَلَكِنْ قَالَ لِي عَلَيْكَ بِتِلْكَ الْكِبَارِ الَّتِي

しかし、部屋の隅のあの大きな魚を取れ、あれは

فِي زَاوِيَةِ الْبَيْتِ فَهِيَ أَدْرَكْتَ أَبَاكَ وَأَكَلْتَهُ

あなたの父を捕えて食べたと言ったのです。

26. 気前の良い男

قِيلَ لِقَيْسِ بْنِ سَعْدٍ هَلْ رَأَيْتَ قَطُّ أَسْخَى

カイス・ブン・サアドに、ある人が言った。あなたより

مِنْكَ

気前の良い人を今までに見た事がありますか。

قَالَ نَعَمْ نَزَلْنَا بِالْبَادِيَةِ عَلَى امْرَأَةٍ فَحَضَرَ

彼は言った。はい、私達は砂漠で、ある女性の

زَوْجُهَا فَقَالَتْ إِنَّهُ نَزَلَ بِكَ ضَيْفَانٌ

ところに泊まり、彼女は夫が現れると、客が泊まっていると言いました。

فَجَاءَ بِنَاقَةٍ فَنَحَرَهَا وَقَالَ شَأْنَكُمْ

すると彼は雌ラクダを連れてきて殺し、好きにせよと言いました。

فَلَمَّا جَاءَ الْغَدُ جَاءَ بِأُخْرَى فَنَحَرَهَا

次の日、彼はまた別のラクダを連れてきて殺し、

وَقَالَ شَأْنَكُمْ

好きにせよと言いました。

فَقُلْتُ مَا أَكَلْنَا مِنَ الَّتِي نَحَرَّتَ الْبَارِحَةَ

私は言いました。昨日あなたが殺したのも

إِلَّا الْيَسِيرَ

わずかしか食べていません。

فَقَالَ إِنِّي لَا أُطْعِمُ أَضْيَافِي الْغَابَّ

彼は言いました。私は客に宵越しのものは食べさせない。

فَأَقَمْنَا عِنْدَهُ أَيَّامًا وَالسَّمَاءُ تُمْطِرُ وَهُوَ

雨が降るままに私達は数日間彼のところに泊まり、

يَفْعَلُ كَذَلِكَ

彼は同じようにしました。

فَلَمَّا أَرَدْنَا الرَّحِيلَ وَضَعْنَا فِي بَيْتِهِ مِائَةَ

私達が出発しようとしたとき、彼のテントに100

دِينَارٍ وَقُلْنَا لِلْمَرْأَةِ أَعْتَدِي لَنَا مِنْهُ

ディーナールを置き、我々のために彼に許しを

وَمَضَيْنَا

請うてくれと女性に言って、立ち去りました。

فَلَمَّا مَتَعَ النَّهَارُ إِذَا رَجُلٌ يَصِيحُ خَلْفَنَا

日が高くなったとき、突然私達の後ろから男が叫びました。

قِفُوا أَيُّهَا الرِّكْبُ اللَّئَامُ أَعْطَيْتُمُونَا ثَمَنَ

待て、卑しい乗り手達よ、あなた方は我々に、もてなしの値を与えた。

الْقَرَى لَتَأْخُذَنَّهَا وَإِلَّا طَعَنْتُكُمْ بِرُمْحِي

それを持って行け、さもなければ槍で突く。

فَأَخَذْنَاهَا وَأَنْصَرَفَ.

そこで我々はそれを取ると、彼は去って行きました。

حُكِيَ أَنَّهُ لَمَّا أَفْضَتِ الْخِلَافَةُ إِلَى بَنِي
الْعَبَّاسِ اخْتَفَتْ مِنْهُمْ جَمِيعُ رِجَالِ بَنِي
أُمَيَّةَ وَكَانَ مِنْهُمْ إِبْرَاهِيمُ بْنُ سُلَيْمَانَ بْنِ
عَبْدِ الْمَلِكِ

次のことが言われている。
カリフ権がアッバース家の

人々の手に帰したとき、ウ
マイヤ家の人々は

彼らから隠れた。その中に
イブラーヒーム・ブン・

スライマーン・ブン・アブド
ルマリクがいた。

وَكَانَ إِبْرَاهِيمُ هَذَا رَجُلًا عَالِمًا كَامِلًا
أَدِيبًا وَهُوَ مَعَ ذَلِكَ فِي سِنِّ الشَّبَابِ
فَأَخَذُوا لَهُ أَمَانًا مِنَ السَّفَّاحِ فَأَعْطَاهُ أَبُو
الْعَبَّاسِ السَّفَّاحُ أَمَانًا وَأَكْرَمَهُ وَقَالَ لَهُ
الزَّمْ مَجْلِسِي

このイブラーヒームは学者
で円満な人であり、文筆家

でもあり、それにもかかわ
らず若年だった。

人々は彼のためにサッフア
ーフに対し安全保証を

取った。アブルアッバース・
サッフアーフは彼に

安全を与え、尊敬し、そば
を離れるなど言った。

ある日、アブルアッバー
ス・サッフアーフは彼に

言った。イブラーヒームよ、
敵から隠れていたときに

起こったことを話せ。

彼は言った。かしこまりま
した、信徒達の長よ、

فَذَاتَ يَوْمٍ قَالَ لَهُ أَبُو الْعَبَّاسِ السَّفَّاحُ
يَا إِبْرَاهِيمُ حَدِّثْنِي عَمَّا مَرَّ بِكَ فِي
أَسْتِخْفَائِكَ مِنَ الْعَدُوِّ
فَقَالَ سَمْعًا وَطَاعَةً يَا أَمِيرَ الْمُؤْمِنِينَ

كُنْتُ مُخْتَفِيًا فِي الْحَيْرَةِ بِمَنْزِلٍ فِي شَارِعِ
عَلَى الصَّحْرَاءِ

私はヒーラで砂漠に面した
道にある家に

隠れていました。

فَبَيْنَمَا كُنْتُ يَوْمًا عَلَى ظَهْرِ ذَلِكَ الْبَيْتِ
إِذْ بَصَرْتُ بِأَعْلَامِ سُودٍ قَدْ خَرَجَتْ مِنْ
الْكُوفَةِ تُرِيدُ الْحَيْرَةَ

ある日その家の表にいた
とき、突然、クーファから

出てヒーラに向かっている
黒旗を見ました。

(黒旗はアツバース家の
旗)

فَتَخَيَّلْتُ أَنَّهَا تُرِيدُنِي فَخَرَجْتُ مُسْرِعًا مِنْ
الْדَّارِ مُتَتَكِّرًا حَتَّى أَتَيْتُ الْكُوفَةَ وَأَنَا لَا
أَعْرِفُ أَحَدًا أَخْتَفِي عِنْدَهُ

私はそれが私のほうに向
かっていると思い、急いで

変装し、その家を出て、ク
ーファまで来ましたが、

そのもとに身を隠せる人を
誰も知りませんでした。

فَبَقِيتُ فِي حَيْرَةٍ فَنَظَرْتُ وَإِذَا أَنَا بِبَابِ
كَبِيرٍ وَاسِعِ الرَّحْبَةِ

うろたえるままでいた
が、見ると広い庭の大きな

門のところに私はいまし
た。

فَدَخَلْتُ فِيهِ فَرَأَيْتُ رَجُلًا وَسِيمًا حَسَنَ
الْهَيْئَةِ مُقْبِلًا عَلَى الرَّحْبَةِ وَمَعَهُ أَتْبَاعُهُ

中に入るとハンサムでスタ
イルも良い男が家来達を

連れて庭に近づいてくるの
が見えました。

فَنَزَلَ عَنْ فَرَسِهِ وَالتَّقَتْ فَرَانِي

彼は馬から下りてながめ、
私を見ました。

فَقَالَ لِي مَنْ أَنْتَ وَمَا حَاجَتُكَ

そして言いました。あなた
は誰です、何の用ですか。

فَقُلْتُ رَجُلٌ خَائِفٌ عَلَيَّ دَمِهِ وَجَاءَ

私は言いました。血を(流されるのを)怖れて

يَسْتَجِيرُ فِي مَنْزِلِكَ

あなたの家に保護を求めてきた人間です。

فَأَدْخَلَنِي مَنْزِلَهُ وَصَيَّرَنِي فِي حُجْرَةٍ تَلِي

彼は私を家に入れ、奥の間に近い部屋に置いて

حَرَمَهُ

くれました。

وَكَنتُ عِنْدَهُ فِي كُلِّ مَا أَحَبَّهُ مِنْ طَعَامٍ

私は彼のもとで食べ物も、飲み物も、着る物も、好き

وَشَرَابٍ وَلبَاسٍ وَهُوَ لَا يَسْأَلُنِي عَنْ شَيْءٍ

なようにさせてもらい、彼は私の事情については、

مِنْ حَالِي

何も尋ねませんでした。

إِلَّا أَنَّهُ كَانَ يَرْكَبُ فِي كُلِّ يَوْمٍ مِنَ الْفَجْرِ

ただ、彼は毎日、明け方から馬に乗って

وَيَمْضِي وَلَا يَرْجِعُ إِلَّا قَرِيبَ الظُّهْرِ

出かけ、昼近くまで戻りませんでした。

فَقُلْتُ لَهُ يَوْمًا أَرَاكَ تُدْمِنُ الرُّكُوبَ كُلَّ يَوْمٍ

ある日、私は彼に言いました。あなたが毎日、熱心に

فَفِي مَ ذَلِكَ

馬に乗っているのを見ますが何故ですか。

فَقَالَ لِي إِنَّ إِبْرَاهِيمَ بْنَ سُلَيْمَانَ بْنَ عَبْدِ

彼は言いました。イブラーヒーム・ブン・スライマーン

الْمَلِكِ كَانَ قَدْ قَتَلَ أَبِي ظُلْمًا

・ブン・アブドルマリクが不正にも父を殺したのだが、

وَقَدْ بَلَغَنِي أَنَّهُ مُخْتَفٍ فِي الْحَيْرَةِ

彼がヒーラに隠れていると聞いたのだ、

فَأَنَا أَطْلُبُهُ يَوْمِيَا لَعَلِّي أَجِدُهُ وَأُذْرِكُ مِنْهُ

私は毎日彼を探している、
たぶん彼を見つけて

تَأْرِي

仇を打つことができるだろ
う。

قَالَ فَلَمَّا سَمِعْتُ ذَلِكَ يَا أَمِيرَ الْمُؤْمِنِينَ

語り手が言った。私はそれ
を聞いたとき、信徒達の

كَثْرَ تَعَجَّبِي وَقُلْتُ فِي نَفْسِي

長よ、大変驚き、心の中で
言いました。

إِنَّ الْقَدَرَ سَاقَنِي إِلَى حَتْفِي فِي مَنْزِلٍ مَنْ

運命が、私の血を求める
人の家で死ぬように

يَطْلُبُ دَمِي

私を追いやったのだ。

فَوَاللَّهِ يَا أَمِيرَ الْمُؤْمِنِينَ إِنِّي كَرِهْتُ

神に誓って、信徒達の長
よ、私は生きるのが嫌に

الْحَيَاةَ

なりました。

ثُمَّ إِنِّي سَأَلْتُ الرَّجُلَ عَنِ اسْمِهِ وَاسْمِ أَبِيهِ

そして男に彼の名前と父
親の名前を尋ねました。

فَأَخْبَرَنِي فَعَلِمْتُ أَنَّ كَلَامَهُ حَقٌّ وَأَنِّي أَنَا

彼は私に告げ、私は彼の
言葉が真実だと知りまし

الَّذِي قَتَلَ أَبَاهُ

た。私が彼の父を殺したの
です。

فَقُلْتُ لَهُ يَا هَذَا إِنَّهُ قَدْ وَجَبَ عَلَيَّ حَقُّكَ

私は言いました。そこのお
かた、私はあなたに

وَلِمَعْرُوفِكَ لِي يَلْزَمُنِي أَنْ أَذُوكَ عَلَى

借りがある。私への親切の
ため、あなたに、父上を

خَصْمِكَ الَّذِي قَتَلَ أَبَاكَ وَأُقْرَبَ عَلَيْكَ

殺した敵を教え、一步近づ
けてさし上げなくては

الْخُطُوةَ

なりません。

وَقَالَ وَمَا ذَاكَ

彼は言いました。それはどういうことか。

فَقُلْتُ لَهُ أَنَا إِبْرَاهِيمُ بْنُ عَبْدِ الْمَلِكِ وَأَنَا

私は言いました。私がイブラーヒーム・ブン・アブドル

قَاتِلُ أَبِيكَ فَخُذْ بِثَأْرِكَ

マリクです、私が父上を殺したのです、仇をとりなさい

فَتَبَسَّ مِنِّي وَقَالَ

彼は微笑んで言いました。

هَلْ أَضْجَرَكَ الْأَخْتِفَاءُ وَالْبُعْدُ عَنْ مَنْزِلِكَ

あなたの家や家族から離れて隠れていることに

وَأَهْلِكَ فَأَحْبَبْتَ الْمَوْتَ

悩まされて死にたくなつたのですか。

فَقُلْتُ لَا وَاللَّهِ وَلَكِنِّي أَقُولُ لَكَ الْحَقَّ وَإِنِّي

私は言いました。神に誓って違います、私は真実を

قَتَلْتُهُ فِي يَوْمٍ كَذَا مِنْ أَجْلِ كَذَا

言っています、しかじかの日にしかじかのために彼を殺したのです。

فَلَمَّا سَمِعَ الرَّجُلُ كَلَامِي هَذَا وَعَلِمَ

男は私の言葉を聞き、真実を言っているとわかる

صِدْقِي تَغَيَّرَ لَوْنُهُ وَأَحْمَرَّتْ عَيْنَاهُ

と、顔色を変え、目を赤くしました。

ثُمَّ فَكَّرَ طَوِيلًا وَالْتَفَتَ إِلَيَّ وَقَالَ

そしてしばらく考え、私のほうを見て言いました。

أَمَّا أَنْتَ فَسَوْفَ تَلْقَى أَبِي عِنْدَ حَاكِمِ

あなたは公正な裁判者(神)のもとで父に会う

عَادِلٍ فَيَأْخُذُ بِثَأْرِهِ مِنْكَ

だろう、そこで父が仇をとるだろう、

وَأَمَّا أَنَا فَلَا أَخْفُرُ ذِمَّتِي وَلَكِنِّي أُرِيدُ أَنْ
تَخْرُجَ عَنِّي فَإِنِّي لَسْتُ آمِنٌ عَلَيْكَ مِنْ
نَفْسِي

私はあなたを守る約束を
破りたくない、しかし私の
もとから出て行ってほし
い、あなたが私自身から
安全だと保証できないか
ら。

ثُمَّ إِنَّهُ أَعْطَانِي أَلْفَ دِينَارٍ فَأَبَيْتُ أَخَذَهَا
وَأَنْصَرَفْتُ عَنْهُ.

そして彼は私に 1000 デイ
ーナールくれたので、
私は受け取るのを断り、彼
のもとを去りました。

28. アブー・ドラーマと鶏小屋

كَانَ الْمَهْدِيُّ قَدْ كَسَا أَبَا دُلَامَةَ سَاجًا
فَأُخِذَ بِهِ وَهُوَ سَكْرَانٌ فَأَتَى بِهِ
فَأَمَرَ بِتَمْزِيقِ السَّاجِ عَلَيْهِ وَأَنْ يُحْبَسَ فِي
بَيْتِ الدَّجَاجِ
فَلَمَّا كَانَ فِي بَعْضِ اللَّيْلِ وَصَحَا أَبُو
دُلَامَةَ مِنْ سُكْرِهِ وَرَأَى نَفْسَهُ بَيْنَ الدَّجَاجِ
صَاحَ يَا صَاحِبَ الْبَيْتِ

マフディーはアブー・ドラ
ーマに礼服を与えていた。
彼は酔っているときに捕え
られ、マフディーのところに
連れてこられた。
マフディーは、命じた。彼
が着ている礼服を破り、
鶏小屋に閉じ込めるよう
に。
夜中になり、アブー・ドラ
ーマが酔いから醒めて
自分が鶏達の間にいるの
を見たとき、
彼は叫んだ。小屋の主人
よ。

فَأَسْتَجَابَ لَهُ السَّجَّانُ وَقَالَ مَا لَكَ يَا

すると牢番が答えて言った。どうしたのか、

عَدُوَّ اللَّهِ

神の敵よ。

قَالَ وَيْلَكَ مَنْ أَدْخَلَنِي مَعَ الدَّجَاجِ

:お前に災いあれ、誰が私を鶏達と一緒に入れたのか。

قَالَ أَعْمَالِكَ الْخَبِيثَةَ

:お前の悪い行いだ。

أَتَى بِكَ أَمِيرُ الْمُؤْمِنِينَ وَأَنْتَ سَكْرَانٌ

お前は酔ってカリフのところへ連れてこられ、

فَأَمَرَ بِتَمْزِيقِ سَاجِكَ وَحَبْسِكَ مَعَ الدَّجَاجِ

カリフはお前の礼服を破り、鶏と一緒に監禁するように命じたのだ。

قَالَ لَهُ وَيْلَكَ أَرْقُبُ لِي سِرَاجًا وَجِبْنِي

:お前に災いあれ、私のために灯を見守り、

بِدَوَاةٍ وَوَرَقٍ

インク壺と紙を持ってきてくれ。

فَكَتَبَ أَبُو دُلَامَةَ إِلَى الْمَهْدِيِّ

そしてアブー・ドラーマはマフディーに書いた。

أَمِيرَ الْمُؤْمِنِينَ فَدَتَكَ نَفْسِي

信徒達の長よ、私の命があなたの身代わりになりますように

عَلَامَ حَبَسْتَنِي وَخَرَقْتَ سَاجِي

なぜあなたは私を監禁し礼服を引き裂いたのですか

أَقَادُ إِلَى السُّجُونِ بِغَيْرِ ذَنْبٍ

私は罪なくして牢へ導かれる

كَأَنِّي بَعْضُ عُمَّالِ الْخَرَاجِ

あたかも私は収税人のよう

وَلَوْ مَعَهُمْ حُبِسْتُ لَهَانَ ذَاكُمُ

もし彼らと監禁されたのなら大したことはない

وَلَكِنِّي حُبِسْتُ مَعَ الدَّجَاجِ

しかし私は雌鶏と一緒に監禁された

دَجَاجَاتٍ يَطِيفُ بِهِنَّ دِيكَ

雌鶏達の間を雄鶏がうろついている

يُنَادِي بِالصِّيَاحِ إِذَا يُنَاجِي

ささやくべきときにも、大声で叫んでいる

وَقَدْ كَانَتْ تُخَبِّرُنِي ذُنُوبِي

私の罪が私に告げていた

بَأَنِّي مِنْ عَذَابِكَ غَيْرُ نَاجِي

あなたの罰から私は逃れられないと

عَلَى أَنِّي وَإِنْ لَأَقِيْتُ شَرًّا

しかし私は不幸な目にあつても

لِخَيْرِكَ بَعْدَ ذَاكَ الشَّرِّ رَاجِي

その不幸の後にあなたから良いことを期待する

ثُمَّ قَالَ أَوْصِلْهَا إِلَى أَمِيرِ الْمُؤْمِنِينَ

そして言った。それをカリフに届けてくれ。

فَأَوْصَلَهَا إِلَيْهِ السَّجَّانُ

牢番はそれをカリフに届けた。

فَلَمَّا قَرَأَهَا أَمَرَ بِإِطْلَاقِهِ وَأَدْخَلَهُ عَلَيْهِ

カリフはそれを読むと、彼を解放するよう命じ、自分のところに彼を入れた。

فَقَالَ لَهُ أَيْنَ بَتَّ اللَّيْلَةَ أَبَا دُلَامَةَ

そして言った。アブー・ドラマよ、どこで夜を過ごしたか。

قَالَ فِي بَيْتِ الدَّجَاجِ يَا أَمِيرَ الْمُؤْمِنِينَ

: 鶏小屋です、信徒達の長よ。

قَالَ فَمَا كُنْتَ تَصْنَعُ

: 何をしていたのか。

قَالَ كُنْتُ أَقْوَى مَعَهُنَّ حَتَّى أَصْبَحْتُ
فَضَحِكَ الْمَهْدِيُّ وَأَمَرَ لَهُ بِصِلَةِ جَزِيلَةٍ
وَوَخَّلَعَ عَلَيْهِ كِسْوَةً شَرِيفَةً.

:朝まで鶏達と一緒にコッ
コッと鳴いてました。

マフディーは笑って彼にた
くさんの贈り物を与える

よう命じ、豪華な服を賜っ
た。

29. この世は塩水

قَالَ بَعْضُ الْحُكَمَاءِ الدُّنْيَا كَالْمَاءِ الْمَالِحِ
كُلَّمَا أَزْدَادَ صَاحِبُهُ شُرْبًا أَزْدَادَ عَطَشًا
وَكَالْكَأْسِ مِنَ الْعَسَلِ فِي أَسْفَلِهِ السَّمُّ
فَلِلذَّائِقِ مِنْهُ حَلَاوَةٌ عَاجِلَةٌ وَفِي أَسْفَلِهِ
الْمَوْتُ الدُّعَافُ

ある賢人が言った。この世
は塩水のようなもの

それに執着する人が飲め
ば飲むほど喉が渴く

また底に毒がある蜜の杯
のようだ

それを味わう者には瞬時
の甘さがあり、その底に

不慮の死がある

وَكَأَحْلَامِ النَّائِمِ الَّتِي تَفْرِحُهُ فِي مَنَامِهِ
فَإِذَا اسْتَيْقَظَ انْقَطَعَ الْفَرَحُ

また眠る者を睡眠中に喜
ばせる夢のようだ

目を覚ませば喜びは断た
れる

وَكَالْبَرْقِ الَّذِي يُضِيءُ قَلِيلًا وَيَذْهَبُ

また瞬間光り、たちまち消
える稲妻のようだ

وَشِيكًا وَيَبْقَى رَاجِيهِ فِي الظَّلَامِ مُقِيمًا

それを望む者は暗闇の中
に置き去りにされる

وَكُدُودَةَ الْإِبْرِيْسِمِ الَّتِي لَا يَزْدَادُ الْإِبْرِيْسِمُ

また自分の体に絹を巻きつければ巻きつけるほど、

عَلَى نَفْسِهَا لَفًا إِلَّا أَزْدَادَتْ مِنَ الْخُرُوجِ

出ることからますます遠くなる絹の虫(蚕)

بُعْدًا

のようだ。

وَفِيهِ قِيلَ

このことについて、こう詠われている。

كُدُودٌ كُدُودِ الْقَرِّ يَنْسُجُ دَائِمًا

蚕が絶えず絹を織るようにあくせくして

وَيَهْلِكُ غَمًّا وَسَطَ مَا هُوَ نَاسِجُهُ

織っているものの真中で悲しみながら滅ぶ

ことわざ

مَا إِنْ¹ يَضُرُّ الْعَضْبَ كَوْنُ قِرَابِهِ

さやがぼろぼろであることは刀を損なわず、

خَلَقًا وَلَا الْبَارِي حَقَارَةٌ عَشَّةٌ

巢の粗末さは鷹の値打ちを損なわない。

1 ما も إن も否定を示す

30. ソームナートの不思議

مِنْ عَجَائِبِ مَدِينَةِ سُومْنَاةَ هَيْكَلٌ فِيهِ

ソームナート市の不思議なことの一つに、ある寺院が

صَنَمٌ كَانَ وَاقِفًا فِي وَسَطِ الْبَيْتِ

あり、建物の真中に偶像が立っているが、それには

لَا بِقَائِمَةٍ مِنْ أَسْفَلِهِ تَدْعُمُهُ وَلَا بِعِلَاقَةٍ
مِنْ أَعْلَاهُ تُمْسِكُهُ

下から支える台もなく、上から捕える吊りひもも

ないのである。

وَكَانَ أَمْرٌ هَذَا الصَّنَمِ عَظِيمًا عِنْدَ الْهِنْدِ

この偶像はインド人にとって大事なもので、

مَنْ رَأَهُ وَاقِفًا فِي الْهَوَاءِ تَعَجَّبَ

それが空中に立っているのを見る者は驚いた。

وَكَانَتْ الْهِنْدُ يَحْجُونَ إِلَيْهِ وَيَحْمِلُونَ إِلَيْهِ

インド人達はそこへ巡礼に行き、あらゆる高価な

مِنَ الْهَدَايَا كُلِّ شَيْءٍ نَفِيسٍ

ものを贈物に運んでいた。

وَكَانَ لَهُ مِنَ الْوُقُوفِ مَا يَزِيدُ عَلَى عَشْرَةِ

その寺院には1万の村を超す寄進された土地が

آلافِ قَرْيَةٍ

あった。

وَكَانَتْ سَدَنَّتُهُ أَلْفَ رَجُلٍ مِنَ الْبَرَاهِمَةِ

1000人のバラモンから成る寺男がいて、彼らは

لِعِبَادَتِهِ وَخِدْمَةِ الْوُقُودِ

礼拝や参拝者への奉仕をしていた。

وَأَمَّا الْبَيْتُ فَكَانَ مَبْنِيًّا عَلَى سِتِّ

建物は、鉛をかぶせたチーク材の

وَخَمْسِينَ سَارِيَةً مِنَ السَّاجِ الْمُصَفَّحِ

56本の柱の上に

بِالرِّصَاصِ

建てられていた。

وَكَانَتْ قُبَّةُ الصَّنَمِ مُظْلِمَةً وَضَوْءُهَا كَانَ

偶像の上の丸天井は暗く、その照明は最高級の

مِنْ قَنَادِيلِ الْجَوْهَرِ الْفَائِقِ وَعِنْدَهُ سِلْسِلَةٌ

宝石のランプによっていた。そこに金の鎖があり

ذَهَبٍ كُلَّمَا مَضَتْ طَائِفَةٌ مِنَ اللَّيْلِ

夜の一刻が過ぎるごとに揺り動かされ、鐘が鳴

حُرَّكَتْ فَتُصَوِّتُ الْأَجْرَاسُ فَيَقُومُ طَائِفَةٌ

って、バラモンの一団が

مِنَ الْبِرَاهِمَةِ لِلْعِبَادَةِ

礼拝のために立ちあがる。

حُكِيَ أَنَّ السُّلْطَانَ يَمِينِ الدَّوْلَةِ لَمَّا غَزَا

次のような話がある。スルタンのヤミン・ダウラが

بِلَادِ الْهِنْدِ وَرَأَى ذَلِكَ الصَّنَمَ أَعْجَبَهُ أَمْرُهُ

インドの国を征服したとき、その偶像を見て驚き、

وَقَالَ لِأَصْحَابِهِ مَاذَا تَقُولُونَ فِي أَمْرِ هَذَا

従者達に言った。この偶像と、それが台も

الصَّنَمِ وَوُقُوفِهِ فِي الْهَوَاءِ بِلَا عِمَادٍ

吊りひももないのに空中に立っていることについて

وَعِلَاقَةٍ

どう思うか。

فَقَالَ بَعْضُهُمْ إِنَّهُ عُلِقَ بِعِلَاقَةٍ وَأُخْفِيَتْ

彼らのうち、ある者が言った。吊りひもで吊るされ、

الْعِلَاقَةُ عَنِ النَّظْرِ

そのひもが見えないように隠されているのです。

وَقَالَ بَعْضُ الْحَاضِرِينَ إِنِّي أَظُنُّ أَنَّ

そこにいたある者が言った。丸天井は磁石で、

الْقُبَّةَ مِنْ حَجَرِ الْمَغْنَاطِيسِ وَالصَّنَمَ مِنْ

偶像は鉄でできていると思います、製作者は仕事を

الْحَدِيدِ وَالصَّانِعُ بَالِغٌ فِي تَدْقِيقِ صَنْعَتِهِ

精密にすることに最善を尽くし、

وَرَاعَى تَكَافُؤَ قُوَّةِ الْمَغْنَاطِيسِ مِنْ

各方向からの磁石の力の
釣り合いを

الْجَوَانِبِ

考慮したのです。

فَوَافَقَهُ قَوْمٌ وَخَالَفَهُ آخَرُونَ

ある人々は彼に賛成し、他
の者は反対した。

فَلَمَّا رَفَعَ حَجَرَيْنِ مِنْ رَأْسِ الْقُبَّةِ مَالَ

そこで丸天井の一番上か
ら2枚の石を取り除くと、

الصَّنَمِ إِلَى أَحَدِ الْجَوَانِبِ

偶像は一方向に傾いた。

فَلَمْ يَزَلْ يَرْفَعُ الْأَحْجَارَ وَالصَّنَمُ يَنْزِلُ

なおも石を取り除くと、偶
像は下に降りてきて

حَتَّى وَقَعَ عَلَى الْأَرْضِ.

ついに床に落ちた。

31. 鳴く鳥

كَانَ بِهَرَامٍ جَالِسًا ذَاتَ لَيْلَةٍ تَحْتَ شَجَرَةٍ

バフラムがある夜、木の
下に座っていると、

فَسَمِعَ مِنْهَا صَوْتَ طَائِرٍ فَرَمَاهُ فَأَصَابَهُ

そこから鳥の声が聞こえ
た。そこで(矢を)射て命中
させた。

وَقَالَ مَا أَحْسَنَ حِفْظَ اللِّسَانِ بِالطَّائِرِ

そして言った。鳥でも人間
でも、舌を守ることは

وَالْإِنْسَانِ

なんと良いことだろう。

لَوْ حَفِظَ هَذَا لِسَانَهُ لَمَا هَلَكَ.

もしこれが舌を守っていた
ら、死ななかつたろうに

32. ムタワッキルの屋敷

أَبُو الْعَيْنَاءِ قَالَ لَهُ الْمُتَوَكَّلُ كَيْفَ تَرَى

アブルアイナーにムタワッキルが言った。

دَارَنَا هَذِهِ

この我々の屋敷をどう思うか。

فَقَالَ يَا أَمِيرَ الْمُؤْمِنِينَ رَأَيْتُ النَّاسَ

彼は言った。信徒達の長よ、私は人々が世界に

يَبْنُونَ الدُّورَ فِي الدُّنْيَا وَأَنْتَ تَبْنِي الدُّنْيَا

家を建てるのを見ましたが、あなたは家の中に

فِي دَارِكَ

世界を建てています。

وَقَدْ نَظَمَ بَعْضُ الْأُدْبَاءِ فِي هَذَا الْمَعْنَى

この意味についてある文人が詩を作った。

وَلِي مَسْئَلَةٌ بَعْدُ

私にはなお質問がある

فَعَاجِلْنِي بِإِخْبَارِي

速やかに私に告げてくれ

بَنَيْتَ الدَّارَ فِي دُنْيَا

あなたは世界に家を建てたのか

لَكَ أَمْ دُنْيَاكَ فِي الدَّارِ

家に世界を建てたのか

33. ムウタシムと少年

عَادَ الْخَلِيفَةُ الْمُعْتَصِمُ خَاقَانَ عِنْدَ مَرَضِهِ

カリフのムウタシムはハーカンが病気の時、見舞った。

وَكَانَ لِخَقَانَ إِذْ ذَاكَ ابْنٌ أَسْمُهُ الْفَتْحُ

そのときハーカンにはファトフという名の息子がいた

فَقَالَ لَهُ الْمُعْتَصِمُ دَارِي أَحْسَنُ أَمْ دَارُ
أَبِيكَ

ムウタシムはその子に言った。私の家とお前の

父の家とどちらが立派か

فَقَالَ مَا دَامَ أَمِيرُ الْمُؤْمِنِينَ فِي دَارِ أَبِي
فَهِيَ أَحْسَنُ

その子は言った。信徒達の長が父の家におられる

限り、そちらが立派です

وَقَالَ الْمُعْتَصِمُ لِلْفَتْحِ وَعَلَى يَدِهِ خَاتَمٌ
يَأْقُوتٌ أَحْمَرٌ فِي غَايَةِ الْحُسْنِ
أَرَأَيْتَ أَحْسَنَ مِنْ هَذَا الْخَاتَمِ
فَقَالَ نَعَمْ أَلْيَدَ الَّتِي فِيهَا.

ムウタシムはファトフにまた言ったが、彼は手に

きわめて美しいルビーの指輪をはめていた。

この指輪より美しいのを見たことがあるか

その子は言った、はい、それがはめられた(あなたの)手です。

34. アレキサンダーと盗賊

كَانَ أَلِيسَكَنْدَرُ يَوْمًا عَلَى تَحْتِ مَمْلَكَتِهِ
وَقَدْ رُفِعَ الْحِجَابُ فَقُدِّمَ بَيْنَ يَدَيْهِ لَصٌّ
فَأَمَرَ بِصَلْبِهِ

アレキサンダーはある日王座に座っていた。

幕が上げられて彼の前に盗賊が引き出された。

彼はその盗賊をはりつけにするよう命じた。

فَقَالَ أَيُّهَا الْمَلِكُ إِنِّي سَرَقْتُ وَلَمْ يَكُنْ لِي

すると盗賊は言った。王よ、私は盗む欲望もなく

شَهْوَةٌ فِي السَّرِقَةِ وَلَمْ يَطْلُبْهَا قَلْبِي

心もそれを欲しなかったのに盗んだのです。

فَقَالَ الْإِسْكَانْدَرُ لَا جَرَمَ أَنَّكَ تُصَلِّبُ وَلَا

アレキサンダーは言った。もちろん、おまえは心が

يَطْلُبُ قَلْبُكَ الصَّلْبَ وَلَا يُرِيدُهُ.

はりつけを欲せず、それを望まないのにはりつけになるのだ。

35. 罵りは無視

شَتَمَ سَفِيهًا حَلِيمًا وَهُوَ سَاكِتٌ

愚か者が温厚な人を罵ったが、彼は黙っていた。

فَقَالَ إِيَّاكَ أَعْنِي

愚か者が言った。あなたのことを意味している。

فَقَالَ وَعَنْكَ أَعْضِي

その人は言った。あなたのことを無視している。

قَالَ الشَّاعِرُ

詩人が次のように詠んでいる。

شَاتَمَنِي عَبْدُ بَنِي مِمْسَعٍ

バヌー・ミスマア部族の奴隷が私を罵った

فَصُنْتُ عَنْهُ النَّفْسَ وَالْعَرِضَا

私は彼から自身と名誉を守った

وَلَمْ أُجِبْهُ لِأَحْتَقَارِي لَهُ

軽蔑するがゆえに彼に答えなかった

مَنْ ذَا يَعَضُّ الْكَلْبَ إِنْ عَضَّ

犬が噛んだからといって誰が犬を噛むだろうか

حُكِيَ عَنْ يَحْيَى بْنِ أَكْثَمَ
قَالَ بِنْتُ لَيْلَةَ عِنْدَ الْمَأْمُونِ

ヤフヤー・ブン・アクサムに
よって伝えられている。

彼が言うには、私はある夜
マアムーンのところ泊ま
った。

夜のある時間に彼は目覚
め、私が眠っていると思っ
た。

彼は喉が渴いたが、私が
起きないように若い者を

呼ばず、怖れつつ静かに
足音をしのばせて

水差しのところへ行き、飲
んだ。

それからまるで盗人のよう
に、音が聞こえないように

して戻り、横になった。

彼は咳が出そうになっ
たが、私が見ていると、

咳が私に聞こえないように
袖を口に当てた。

夜明けになり彼は起きよう
としたが、私が眠ったふり

をしていると、まさに礼拝
の時刻が過ぎようとする

まで辛抱し、私が身動きす
ると言った。神は偉大な
り、若い者よ、

فَأَنْتَبَهَ فِي بَعْضِ اللَّيْلِ فَظَنَّ أَنِّي نَائِمٌ
فَعَطِشَ وَلَمْ يَدْعُ الْغُلَامَ لِيَلَّا أَنْتَبِهَ وَقَامَ
مُتَسَلِّلاً خَائِفاً هَادِئاً فِي خُطَاهُ حَتَّى أَتَى
الْبِرَادَةَ فَشَرِبَ

ثُمَّ رَجَعَ وَهُوَ يُخْفِي صَوْتَهُ كَأَنَّهُ لِيصُّ
حَتَّى اضْطَجَعَ

وَأَخَذَهُ سُعَالٌ فَرَأَيْتُهُ يَجْمَعُ كُمَّهُ فِي فَمِهِ
كَيْلًا أَسْمَعَ سُعَالَهُ

وَطَلَعَ الْفَجْرُ فَأَرَادَ الْقِيَامَ وَقَدْ تَتَاوَمْتُ
فَصَبَرَ إِلَيَّ أَنْ كَادَتْ تَقُوتُ الصَّلَاةُ

فَتَحَرَّكَتُ فَقَالَ اللَّهُ أَكْبَرُ يَا غُلَامُ نَبِّهْ

أَبَا مُحَمَّدٍ

アブー・ムハンマド(ヤフヤー
ーのこと)を起こせ

فَقُلْتُ يَا أَمِيرَ الْمُؤْمِنِينَ رَأَيْتُ بِعَيْنِي

そこで私は言った。信徒達
の長よ、昨夜のあなたの

جَمِيعَ مَا كَانَ اللَّيْلَةَ مِنْ صَنِيعِكَ

行ないを私はこの目で全
部見ました。

وَكَذَلِكَ جَعَلْنَا اللَّهُ لَكُمْ عَيْدًا وَجَعَلَكُمْ لَنَا

このようであるので神は
我々をあなた方のしもべ

أَرْبَابًا.

とし、あなた方を我々の主
人となさったのです。

37. 回文

(右から読んでも左から読んでも同じ文になる)

سَكَتَ كُلٌّ مِّنْ نَّمَّ لَكَ تَكِسُ

あなたを中傷する人すべ
てを沈黙させよ、そうすれ
ばあなたは賢いだろう

سِرْ فَلَا كَبَا بِكَ الْفَرَسُ

行きなさい、あなたを乗せ
た馬がつかずかないことを
(祈ります)

38. 暗黒の国への旅

وَكَئِنِّي أَرَدْتُ الدُّخُولَ إِلَى أَرْضِ الظُّلْمَةِ

私は暗黒の国へ入りたく
思っていた。

وَالدُّخُولُ إِلَيْهَا مِنْ بُلْغَارَ وَبَيْنَهُمَا مَسِيرَةٌ

そこに入るにはブルガール
を通過してである。

أَزْبَعِينَ يَوْمًا

両者の間は40日の旅路である。

ثُمَّ أَضْرَبْتُ عَنْ ذَلِكَ لِعِظَمِ الْمَوْنَةِ فِيهِ

そして私は、食料が多く要るのに利益が少ないので

وَقَلَّةِ الْجَدْوَى

それを断念した。

وَالسَّفَرُ إِلَيْهَا لَا يَكُونُ إِلَّا فِي عَجَلَاتٍ

そこへの旅は大きな犬達が引く小さな車に

صِغَارٍ تَجْرُهَا كِلَابٌ كِبَارٌ

乗っていくよりほかはない。

فَإِنَّ تِلْكَ الْمَفَازَةَ فِيهَا الْجَلِيدُ فَلَا تَثْبُتُ قَدَمُ

その荒野は氷があり、人間の足も獣のひづめも

الْأَدْمَى وَلَا حَافِرُ الدَّابَّةِ فِيهَا

立てない。

وَالْكِلَابُ لَهَا الْأَظْفَارُ فَتَثْبُتُ أَقْدَامُهَا فِي

爪のある犬は氷で

الْجَلِيدِ

足が立つ。

وَلَا يَدْخُلُهَا إِلَّا الْأَقْوِيَاءُ مِنَ التُّجَّارِ الَّذِينَ

そこで、食べ物、飲み物、薪を積んだ車を

يَكُونُ لِأَحَدِهِمْ مِائَةٌ عَجَلَةٍ أَوْ نَحْوَهَا

100台くらい持っている有力な商人達だけが

مُوقِرَةٌ بِطَعَامِهِ وَشَرَابِهِ وَحَطْبِهِ

そこに入る。

فَإِنَّهَا لَا شَجَرَ فِيهَا وَلَا حَجَرَ وَلَا مَدَرَ

そこには木も石も人里もないからである。

وَالدَّلِيلُ بِتِلْكَ الْأَرْضِ هُوَ الْكَلْبُ الَّذِي قَدْ

その地の案内者はそこを何度も旅したことのある

سَارَ فِيهَا مِرَارًا كَثِيرَةً وَتَنَّتْهُ إِلَى

犬であり、その値段は
1000 ディーナールほどに

أَلْفِ دِينَارٍ وَنَحْوَهَا

も至る。

وَتُرْبِطُ الْعَرَبَةَ إِلَى عُنُقِهِ وَيُقِرُّنُ مَعَهُ ثَلَاثَةً

車がその犬の首に結ば
れ、3 匹の犬と一緒に

مِنَ الْكِلَابِ وَيَكُونُ هُوَ الْمُقَدَّمُ وَتَتَّبِعُهُ

つながれる。その犬が長
になり、車につなぐれ

سَائِرُ الْكِلَابِ بِالْعَرَبَاتِ فَإِذَا وَقَفَ

た他の犬達はその犬に従
う。その犬が止まれば

وَقَفَتْ

他の犬も止まる。

وَهَذَا الْكَلْبُ لَا يَضْرِبُهُ صَاحِبُهُ وَلَا يَنْهَرُهُ

この犬を主人は打たず、叱
らない。

وَإِذَا حَضَرَ الطَّعَامَ أُطْعِمَ الْكِلَابَ أَوْلًا

食事が出るときは、人間よ
り前に、最初に犬達に

قَبْلَ بَنِي آدَمَ وَإِلَّا غَضِبَ الْكَلْبُ وَفَرَّ

食べさせる。さもなければ
その犬が怒り、逃げて、

وَتَرَكَ صَاحِبَهُ لِلتَّافِ

主人を残し、破滅に至らし
める。

فَإِذَا كَمَلَتْ لِلْمُسَافِرِينَ بِهَذِهِ الْفَلَاةِ أَرْبَعُونَ

旅人はこの荒野の 40 の宿
場の旅が終わったとき、

مَرْحَلَةً نَزَلُوا عِنْدَ الظُّلْمَةِ وَتَرَكَ كُلُّ وَاحِدٍ

暗黒の地に宿泊し、各々
が持って来た

مِنْهُمْ مَا جَاءَ بِهِ مِنَ الْمَتَاعِ هُنَالِكَ

商品をそこに置き、

وَعَادُوا إِلَى مَنْزِلِهِمُ الْمُعْتَادِ

いつもの宿に戻る。

فَإِذَا كَانَ مِنَ الْغَدِ عَادُوا لِتَفْقُدِ مَتَاعِهِمْ
فَيَجِدُونَ بِإِزَائِهِ مِنَ السَّمُورِ وَالسَّنَجَابِ
وَالْقَاقِمِ

翌日になると自分達の商
品を調べに戻ってくる。

そして商品の前に黒テン
やリスやテンを

見つける。

وَإِنْ أَرْضَى صَاحِبَ الْمَتَاعِ مَا وَجَدَهُ إِزَاءَ
مَتَاعِهِ أَخَذَهُ وَإِنْ لَمْ تُرْضِهِ تَرَكَهُ.

もし商品の前に見つけたも
のに商品の持ち主が満足

すれば、それを取り、満足
しなければ、おいておく。

39. ムタラツミスとウマイマ

يُحْكِي أَنَّ الْمُتَلَمَّسَ هَرَبَ مِنَ النُّعْمَانِ
أَبْنِ الْمُنْذِرِ وَغَابَ غَيْبَةً طَوِيلَةً حَتَّى
ظَنُّوا أَنَّهُ مَاتَ

次のように言われている。
ムタラツミスはヌアマーン

・ブン・ムンズイルから逃
げ、長い間姿を隠した

ので、とうとう人々は彼が
死んだと思った。

وَكَانَ لَهُ زَوْجَةٌ جَمِيلَةٌ تُسَمَّى أُمَيْمَةَ

彼にはウマイマと呼ばれる
美しい妻がいた。

فَأَشَارَ عَلَيْهَا أَهْلُهَا بِالزَّوْاجِ فَأَبَتْ

彼女の家族は彼女に結婚
するよう忠告したが、彼女
は拒んだ。

فَأَلْحَوْا عَلَيْهَا أَهْلُهَا لِكَثْرَةِ خُطَابِهَا

求婚者が多いので家族は
彼女にしつこく迫り、

فَغَضَبُوهَا عَلَى الزَّوْاجِ فَأَجَابَتْهُمْ إِلَى ذَلِكَ

結婚を強いた。それで彼女
はいいやいやながら

وَهِيَ كَارِهَةٌ

それに応じた。

فَزَوَّجُوهَا رَجُلًا مِنْ قَوْمِهَا وَكَانَتْ تُحِبُّ

彼らは部族の男との結婚を決めたが、彼女は

زَوْجَهَا الْمُتَلَمَّسَ مَحَبَّةً عَظِيمَةً

夫のムタラツミスを大変愛していた。

فَلَمَّا كَانَتْ لَيْلَةٌ زَفَافِهَا عَلَى ذَلِكَ الرَّجُلِ

人々が結婚を強いたその男のもとへの輿入れの

الَّذِي غَصَبُوهَا عَلَى الزَّوْاجِ بِهِ قَدِمَ

夜になったとき、夫のムタラツミスが、ちょうど

زَوْجَهَا الْمُتَلَمَّسُ فِي تِلْكَ اللَّيْلَةِ فَسَمِعَ

その夜帰ってきて、部落で

فِي الْحَيِّ صَوْتَ الْمَزَامِيرِ وَالْدُّفُوفِ

笛や太鼓の音を聞き、

وَرَأَى عِلَامَاتِ الْفَرَحِ

婚礼のしるしを見た。

فَسَأَلَ مِنْ بَعْضِ الصَّبِيَّانِ عَنْ هَذَا الْفَرَحِ

そこである子供にこの婚礼について尋ねると、

فَقَالُوا لَهُ إِنَّ أُمِيمَةَ زَوْجَةَ الْمُتَلَمَّسِ

彼らは言った。ムタラツミスの奥さんが、誰それとの

زَوَّجُوهَا لِفُلَانٍ وَهَا هِيَ تُزَفُّ إِلَيْهِ فِي

結婚を決められて、ほら、今夜、輿入れが

هَذِهِ اللَّيْلَةِ

あるんだよ。

فَلَمَّا سَمِعَ الْمُتَلَمَّسُ ذَلِكَ الْكَلَامَ تَحَيَّلَ

ムタラツミスはその言葉を聞くと、策略をめぐらして

فِي الدُّخُولِ مَعَ جُمْلَةِ النِّسَاءِ فَوَجَدَهُمَا

女達の仲間に入り込み、2人が花嫁の部屋に

عَلَىٰ مَنصَتَيْهِمَا فَتَنَفَسَتْ الصُّعْدَاءُ

いるのを見つけた。すると
彼女は深いため息を

وَبَكَتْ وَأَنْشَدَتْ هَذَا الْبَيْتَ

ついて泣き、この詩句を詠
んだ。

أَيَا لَيْتَ شِعْرِي وَالْحَوَادِثُ جَمَّةٌ

いろいろな事件が数多くあ
るにつけても

بَأَىٰ بِلَادِ أَنْتَ يَا مُتَلَمِّسُ

ムタラツミス、あなたがど
この国にいるのか知りたいも
のです

وَكَانَ زَوْجُهَا الْمُتَلَمِّسُ مِنَ الشُّعْرَاءِ

彼女の夫のムタラツミスは
有名な詩人の1人であり、

الْمَشْهُورِينَ فَأَجَابَهَا بِقَوْلِهِ

次のように詠って答えた。

بِأَقْرَبِ دَارٍ يَا أُمَيْمَةَ فَأَعْلِمِي

ウマイマよ、私はすぐ近く
にいる、知りなさい

وَمَا زِلْتُ مُشْتَاقًا إِذَا الرُّكْبُ عَرَّسُوا

隊商が露營するときも、私
はいつもあなたを慕ってい
た

فَعِنْدَ ذَلِكَ فَطِنَ الْعَرِيسُ بِهِمَا فَخَرَجَ مِنْ

そのとき花婿は2人に気づ
き、次のような歌を

بَيْنَهُمَا بِسُرْعَةٍ وَهُوَ يُنْشِدُ قَوْلَهُ

詠みながら、すぐに2人の
ところから出て行った。

فَكُنْتُ بِخَيْرٍ ثُمَّ بَتُّ بِضِدِّهِ

私は良い機嫌だった、とこ
ろがその反対で夜を過ごし
た

وَضَمَّكَمَا بَيْتٍ رَحِيبٌ وَمَجْلِسُ

広い家と座る場所があな
たがた2人を結び付ける

ثُمَّ تَرَكَهُمَا وَذَهَبَ وَعَاشَتْ مَعَ زَوْجِهَا

そして彼らを残して出て行
った。彼女は夫のムタ

الْمُتَلَمِّسِ وَمَا زَالَا فِي أَطْيَبِ عَيْشٍ

ラツミスと共に住み、死が
彼らを引き離すまで

وَأَصْفَاهُ وَأَرْغَدِهِ وَأَهْنَاهُ إِلَىٰ أَنْ فَرَقَ بَيْنَهُمَا
الْمَمَاتُ

愉快で幸福で安楽で楽しい生活を

続けた。

فَسُبْحَانَ مَنْ تَقَوَّمَ بِأَمْرِهِ الْأَرْضُ
وَالسَّمَاوَاتُ.

その命令で地と天が秩序づけられるおかたに

栄光あれ。

40. ハーティムの気前良さ

قِيلَ إِنَّ حَاتِمًا جَلَسَ يَوْمًا لِلشَّرَابِ وَدَعَا
إِلَيْهِ مَنْ كَانَ فِي الْحِلَّةِ فَحَضَرُوا وَكَانُوا
يُنِيفُونَ عَلَىٰ مِائَتِي رَجُلٍ

次のように言われている。
ある日ハーティムが

飲むために座り、宿場の
人を全部呼んだ。彼ら

は出席し、その数は200人
を超えていた。

فَلَمَّا فَرَغُوا مِنْ شَرَابِهِمْ وَأَرَادُوا
الْأَنْصِرَافَ أُعْطِيَ كُلَّ وَاحِدٍ مِنْهُمْ
ثَلَاثًا مِنَ النَّوْقِ.

飲み終わって彼らが立ち
去ろうとしたとき、

彼は彼ら全員に3頭ずつ。

雌ラクダを与えた。

قِيلَ إِنَّ لِصَيْنٍ سَرَقَا حِمَارًا وَمَضَى
أَحَدُهُمَا لِيَبِيعَهُ

次のような話がある2人の
泥棒がロバを盗み、

そのうちの1人がそれを売
りに行った。

فَقَابَلَهُ رَجُلٌ مَعَهُ طَبَقٌ فِيهِ سَمَكٌ فَقَالَ لَهُ
أَتَبِيعُ هَذَا الْحِمَارَ

すると魚を入れた皿を持っ
た男に出会った。男は

彼に言った。このロバを売
るのか。

قَالَ نَعَمْ

: そうだ

قَالَ لَهُ أَمْسِكْ هَذَا الطَّبَقَ حَتَّى أُرْكَبَهُ
وَأَجْرِيهِ فَإِنْ أَعْجَبَنِي أَشْتَرِيْتَهُ بِثَمَنِ
يُعْجِبُكَ

: 私が乗って試す間、この
皿を、

持っていてくれ、気に入っ
たら、

あなたの気に入る値で買
おう。

فَأَمْسَكَ اللَّصُّ الطَّبَقَ وَرَكِبَ الرَّجُلُ

泥棒は皿を持った。男はロ
バに乗り、繰り返す

الْحِمَارَ وَأَخَذَ يُرَدِّدُهُ وَيُجْرِيهِ ذَهَابًا وَإِيَابًا
حَتَّى أَبْتَعَدَ عَنِ اللَّصِّ كَثِيرًا

往復して走らせ始め、とう
とう泥棒からかなり遠く

まで行ってしまった。

فَدَخَلَ بَعْضَ الْأَزِقَّةِ وَمَا زَالَ يَقْطَعُ بِهِ مِنْ
رُفَاقٍ إِلَى آخَرٍ حَتَّى اخْتَفَى عَنْهُ بِالْكُلِّيَّةِ

そしてある横道に入り、横
道から横道へと通り続けて

全く姿が見えなくなった。

فَأَخَذَتِ اللَّصَّ الْحَيْرَةَ مِنْ ذَلِكَ وَعَرَفَ

泥棒はそのことに狼狽し、
とうとうそれが

أَخِيرًا أَنَّهَا حِيلَةٌ عَلَيْهِ

彼に対する計略だったことを
知った。

فَرَجَعَ بِالطَّبَقِ فَأَلْتَقَاهُ رَفِيقُهُ فَقَالَ

彼は皿を持って帰り、仲間に
会った。仲間は言った。

مَا فَعَلْتَ بِالْحِمَارِ هَلْ بَعْتَهُ

ロバをどうした、売ったの
か。

قَالَ نَعَمْ

: そうだ。

قَالَ بِكَمْ

: いくらで？

قَالَ بِرَأْسِ مَالِهِ وَهَذَا الطَّبَقُ رِيحٌ

: 元値で、この皿はその儲
けだ。

فَقَالَ مُتَمَثِّلًا

すると彼は例えをひいて詩
を詠んだ。

وَلَكُمْ مَنْ سَعَى لِيَصْطَادَ فَأَصْطِيدُ

捕えようと努力しながら捕
えられ

دَ وَلَمْ يَلْقَ غَيْرَ خُفْيِ حُنَيْنٍ

フナインの靴以外見つけ
なかった者がいかに多い
ことよ(次の話を参照)

42. フナインの靴を持って帰る

وَمِنْ أَمْثَالِ الْعَرَبِ رَجَعَ بِخُفْيِ حُنَيْنٍ

アラブのことわざの中に
「フナインの靴を持って帰
る」というものがある。

وَحُنَيْنٌ أَسْمُ رَجُلٍ إِسْكَافٍ

フナインは靴屋の男の名
前である。

فَجَاءَهُ أَعْرَابِيٌّ لِيَشْتَرِيَ مِنْهُ خُفَّيْنِ فَجَرَى

彼のところに靴を買いにベドウィンが来た。その

بَيْنَهُمَا مُضَايَقَةٌ فِي الثَّمَنِ فَأَغْضَبَ

値段について両者の間にもめごとが起こり、

الْأَعْرَابِيُّ حُنَيْنًا مِنْ كَلَامٍ وَلَمْ يَشْتَرِ

ベドウィンは口論でフナインを怒らせ、靴を

الْخُفَّ

買わなかった。

فَلَمَّا أَرَادَ الْأَعْرَابِيُّ أَنْ يَرْتَحِلَ سَعَى

ベドウィンが立ち去ろうとしたとき、フナインは

حُنَيْنٌ فِي طَرِيقِهِ قَبْلُ وَأَلْقَى أَحَدَ الْخُفَّيْنِ

彼の行く手を先回りして走り、靴の片方を

فِي طَرِيقِهِ

道に捨てた。

ثُمَّ مَشَى مَسَافَةً بَعِيدَةً وَأَلْقَى الْخُفَّ

それから遠くの距離を歩き、もう片方の靴を

الْآخَرَ فِي مَوْضِعٍ آخَرَ وَأَسْتَتَرَ خَلْفَ

別の場所に捨て、木の後ろに

شَجَرَةٍ

隠れた。

فَلَمَّا مَرَّ الْأَعْرَابِيُّ بِأَحَدِهِمَا قَالَ

ベドウィンが片方のところを通りかかって言った。

مَا أَشْبَهَ هَذَا الْخُفَّ بِخُفِّي حُنَيْنٍ

この靴はフナインの靴になんと似ているんだらう

وَلَوْ كَانَ مَعَهُ زَوْجَتُهُ لَأَخَذَتْهُ

もしもう片方もあれば持っていくのだが。

وَمَضَى فَلَمَّا أَنْتَهَى إِلَى الْمَوْضِعِ الَّذِي

そして行き、もう片方がある場所に至ったとき、

فِيهِ الْآخِرُ نَدِمَ عَلَى تَرْكِ الْأَوَّلِ

最初の見捨てたことを後悔した。

فَأَنَاخَ رَاحِلَتَهُ عِنْدَ الْآخِرِ وَرَجَعَ إِلَى

そこで乗っていたラクダをもう一方の靴の上に

الْأَوَّلِ

うずくまらせて、最初の靴のところへ戻った。

فَجَاءَ حُنَيْنٌ وَرَكِبَ عَلَى رَاحِلَةِ الْأَعْرَابِيِّ

するとフナインが来てベドウインのラクダに乗り

وَذَهَبَ

行ってしまった。

فَلَمَّا رَجَعَ الْأَعْرَابِيُّ رَأَى الْخُفَّ وَلَمْ يَرَ

ベドウインが戻ると片方の靴はあったが、ラクダは

رَاحِلَتَهُ فَأَخَذَ الْخُفَّيْنِ

いなかった。それで靴1足を持っていった。

فَلَمَّا جَاءَ إِلَى قَوْمِهِ فَقَالَ لَهُ قَوْمُهُ بِمِ

彼が部族のところへ戻り、人々が旅から何を持って

جِئْتَ مِنْ سَفَرِكَ قَالَ جِئْتُكُمْ بِخُفَيْ حُنَيْنٍ

帰ったかと言ったとき、彼は言った。フナインの靴を持って帰った。

فَصَارَ هَذَا مَثَلًا لِمَنْ رَجَعَ مِنْ سَفَرِهِ

これは失望し、損をして、旅から帰ってくる人の例え

خَائِبًا خَاسِرًا يُقَالُ رَجَعَ فُلَانٌ بِخُفَيْ

となり、何某はフナインの靴を持って帰った、

حُنَيْنٍ يَعْنِي خَائِبًا

すなわち失望して帰ったと言われるようになった。

وَقِيلَ أَصْلُ هَذَا الْمَثَلِ غَيْرُ مَا أوردناه

一説ではこの例えの起こりは我々が述べたものではないとも言われている。

وَاللَّهُ أَعْلَمُ.

神が最もよく知り給う。

43. 幾つですか

قَالَ رَجُلٌ لِهَيْشَامِ الْقُوطِيِّ كَمْ تَعُدُّ

ある人がヒシャム・クォーティに言った。あなたは幾つを数えますか。

قَالَ مِنْ وَاحِدٍ إِلَى أَلْفٍ وَأَكْثَرَ

彼は言った。1から1000、それ以上も。

قَالَ لَمْ أُرِدْ هَذَا

:そういうつもりではありませんでした。

قَالَ فَمَا أَرَدْتَ

:では、どんなつもりだったんだ。

قَالَ كَمْ تَعُدُّ مِنْ أَلْسِنٍ

:sinn(年齢または歯)を幾つ数えますか。

قَالَ اثْنَيْنِ وَثَلَاثِينَ

:32本だ。

قَالَ لَمْ أُرِدْ هَذَا

:そういうつもりではありませんでした。

قَالَ فَمَا أَرَدْتَ

:では、どんなつもりだったんだ。

قَالَ كَمْ لَكَ مِنَ السِّنِّينَ

:あなたの年は幾つですか。

قَالَ مَا لِي مِنْهَا شَيْءٌ كُلُّهَا لِلَّهِ عَزَّ وَجَلَّ

:私のものはない、年はずべて至高偉大なる神のもの。

قَالَ فَمَا سِنُّكَ

:あなたの sinn(上記参照)は何ですか。

قَالَ عَظْمٌ

:骨だ。

قَالَ فَأَبْنُ كَمْ أَنْتَ

:あなたは幾つの子ですか(=何歳ですか。)

قَالَ ابْنُ أُثَيْنِ أَبِي وَأُمِّ

:父と母、2人の子だ。

قَالَ فَكَمْ أَتَى عَلَيْكَ

:あなたに幾つ来ましたか。

قَالَ لَوْ أَتَى عَلَيَّ أَحَدٌ لَقَتَلَنِي

:もし誰かが来ていたら、私を殺していただろう。

قَالَ فَكَيْفَ أَقُولُ

:どう言えばいいのですか。

قَالَ قُلْ كَمْ مَضَى مِنْ عُمْرِكَ

:あなたの寿命が幾つ過ぎたかと言いなさい。

44. 打つなら打て

كَانَ إِبْرَاهِيمُ بْنُ أَدْهَمَ يَوْمًا يَحْفَظُ كَرْمًا

イブラーヒーム・ブン・アドハムがある日ブドウ畑の番をしていた。

فَمَرَّ بِهِ جُنْدِيٌّ فَقَالَ أَعْطِنَا مِنْ هَذَا

すると兵士が通りかかって言った。このブドウを

الْعَنْبِ

くれ。

فَقَالَ مَا أَمَرَنِي صَاحِبُهُ

彼は言った。持ち主は私にそう命じなかった。

فَأَخَذَ يَضْرِبُهُ بِالسَّوْطِ فَطَاطَأَ رَأْسَهُ

すると兵士は彼をムチで打ち始めた。イブラーヒームは頭を垂れ、

وَقَالَ أَضْرِبْ رَأْسًا طَالَمَا عَصَى اللَّهُ

言った。長い間神にそむいてきた首を打て。

فَأَنْحَجَزَ الرَّجُلُ وَمَضَى.

すると男は自制し、行ってしまった。

45. ブドウ酒を求める

كَتَبَ بَعْضُ الظُّرَفَاءِ إِلَى صَاحِبِ لَهُ
يَطْلُبُ خَمْرًا

ある洒落者が友人にブドウ酒を求めて次のような

詩を書いた。

أَشْكُو إِلَيْكَ بَرَاغِيثًا¹ بُلِيثُ بِهَا

あなたに訴えます、黒いノミに悩まされていると

سُودًا إِذَا أَنْتَبَهُوا فِي اللَّيْلِ لَمْ أَنَمْ²

それらが夜に起きてくると、私は眠れない

أَصِيدُ هَذَا فَيَبْقَى ذَا فَيَلْدَغُنِي

こっちを捕えるとあつちは生き残り、私を噛む

فَيَنْقُضِي اللَّيْلُ فِي صَيْدِي وَلَدَغِهِمْ²

私が捕え、それらが噛み、夜が過ぎる

وَقَدْ تَيَقَّنْتُ أَنِّي لَيْسَ يُنْقِذُنِي

私は確信した、私を救うものはただ

سِوَى ابْنَةِ الْكَرْمِ يَا ابْنَ الْجُودِ وَالْكَرَمِ

ブドウの娘以外にないと。寛大で心広き人よ

إِبْعَثْ إِلَيَّ دَمَ الْعُنُقُودِ أَشْرِبُهَا

私にブドウの房の血を送って下さい、飲みます

لَكِنِّي أَنَامُ وَلَا أَشْعُرُ بِسَفْكِ دَمِي

血が流れるのを感じずに眠るために

1 本来は بَرَاغِيثُ だが詩の韻律に合わせている

2 本来は أَنَمْ 、 لَدَغِهِمْ だが詩の脚韻に合わせている

وَمِنْ جُمْلَةِ الْمُعْجَزَاتِ الَّتِي أَعْطَاهُ اللَّهُ
عَزَّ وَجَلَّ مُوسَى قَضِيَّتُهُ مَعَ قَالُونَ مِنْ
الْكَامِلِ

至高偉大なる神がムーサー(モーセ)に与えられた奇跡の一つに、

『カーミル』の書によれば、カールーン(コラ)に

関する件がある。

いわく、カールーンはムーサーのいとこだった。

いと高き神は前述のカールーンに莫大な財産を

賜っていた。時代の経過と共に、それが例えとして

引かれるようになり、彼の宝庫の鍵は

40頭のラバで運ばれたと言われ、彼は大きな

屋敷を建て、金で覆い、戸を金で作り、

彼の財産は無限であると

言われていた。

カールーンは財産の多さのためにムーサーに対し、

高慢になり、彼を讒訴(ざんそ)して服従から脱しよう

قَالَ وَكَانَ قَارُونُ ابْنُ عَمِّ مُوسَى وَكَانَ
اللَّهُ تَعَالَى قَدْ رَزَقَ قَارُونَ الْمَذْكُورَ مَالًا
عَظِيمًا يُضْرَبُ بِهِ الْمَثَلُ عَلَى طُولِ
الدَّهْرِ قِيلَ إِنَّ مَفَاتِيحَ خَزَائِنِهِ كَانَتْ
تُحْمَلُ عَلَى أَرْبَعِينَ بَعْلاً وَبَنَى دَارًا
عَظِيمَةً وَصَفَّحَهَا بِالذَّهَبِ وَجَعَلَ
أَبْوَابَهَا ذَهَبًا وَقَدْ قِيلَ عَنْ مَالِهِ شَيْئًا يَخْرُجُ
عَنِ الْحَصْرِ

فَتَكَبَّرَ قَارُونُ بِسَبَبِ كَثْرَةِ مَالِهِ عَلَى
مُوسَى وَاتَّفَقَ مَعَ بَنِي إِسْرَائِيلَ عَلَى قَذْفِهِ

وَالْخُرُوجِ عَنْ طَاعَتِهِ

とイスラエルの民と共謀した。

وَأَحْضَرُوا أَمْرًا بَغِيًّا وَهِيَ الْقَحْبَةُ

売春婦を不貞の女として連れてきて、彼女に

وَجَعَلَ لَهَا جُعْلًا وَأَمَرَهَا بِقَذْفِ مُوسَى

報酬を払い、彼女自身がムーサーと密通したと

بِنَفْسِهَا وَأَتَّفَقَ مَعَهَا عَلَى ذَلِكَ

讒訴するよう命じ、そのように示し合わせた。

ثُمَّ أَتَى مُوسَى وَقَالَ إِنَّ قَوْمَكَ قَدْ اجْتَمَعُوا

そしてムーサーのところに行き、あなたの民が集ま

فَخَرَجَ إِلَيْهِمْ مُوسَى وَقَالَ

っていますと言うと、ムーサーは出てきて言った。

مَنْ سَرَقَ قَطَعْنَاهُ وَمَنْ أَفْتَرَى جَلَدْنَاهُ وَمَنْ

盗む者は(手を)切断する、嘘をでっちあげる者は

زَنَى وَلَيْسَ لَهُ أَمْرَةٌ جَلَدْنَاهُ مِائَةَ جَلْدَةٍ

ムチ打つ、密通した者は妻がないなら 100 回

وَإِنْ كَانَتْ لَهُ أَمْرَةٌ رَجَمْنَاهُ حَتَّى يَمُوتَ

ムチ打ち、妻がいる者は石を投げて殺す。

فَقَالَ لَهُ قَارُونُ وَإِنْ كُنْتَ أَنْتَ

カールーンは彼に言った。たとえ、あなたでも？

قَالَ مُوسَى نَعَمْ وَإِنْ كُنْتُ أَنَا

ムーサーは言った。たとえ私自身でも。

قَالَ إِنَّ بَنِي إِسْرَائِيلَ يَزْعُمُونَ أَنَّكَ

カールーンは言った。イスラエルの民はあなたが

فَجَرْتَ بِفُلَانَةٍ

何某の女と不義を行ったと主張しています。

قَالَ مُوسَى فَأَدْعُوهَا فَإِنْ قَالَتْ فَهُوَ كَمَا

ムーサーは言った。その女を呼びなさい、彼女が

قَالَتْ

言ったら、言ったとおりだ。

فَلَمَّا جَاءَتْ قَالَ لَهَا مُوسَى

女が来ると、ムーサーは彼女に言った。

أَقْسَمْتُ عَلَيْكَ بِالَّذِي أَنْزَلَ التَّوْرَةَ إِلَّا

律法を下された方に誓って本当のことを言うように

صَدَقْتَ أَعْنَا فَعَلْتَ بِكَ مَا يَقُولُ هَؤُلَاءِ

要求する、私はこれらの者が言うことをお前にしたか

قَالَتْ لَا، كَذَبُوا وَلَكِنْ جَعَلُوا لِي جُعْلًا

女は言った。いいえ、彼らは嘘をついています、

عَلَى أَنْ أَقْذِفَكَ

あなたを讒訴するよう私に報酬をくれました。

فَأَوْحَى اللَّهُ تَعَالَى إِلَى مُوسَى مِرًّا

いと高き神はムーサーに啓示された。好きなように

الْأَرْضَ بِمَا شِئْتَ تُطِعُكَ

大地に命じよ、お前の言うことを聞くだらう。

فَقَالَ يَا أَرْضُ خُذِيهِمْ

ムーサーは言った。大地よ、彼らを捕えよ。

فَجَعَلَ قَارُونَ يَقُولُ يَا مُوسَى أَرْحَمْنِي

カールーンは、ムーサーよ、私を憐れめと言い始め

وَمُوسَى يَقُولُ يَا أَرْضُ خُذِيهِمْ فَأَبْتَلَعَتْهُمْ

たが、ムーサーは大地よ、彼らを捕えよと言い、

الْأَرْضُ ثُمَّ خُسِفَ بِهِمْ وَبَدَارَ قَارُونَ.

大地は彼らをのみこみ、彼らとカールーンの家を陥没させた。